

教学の手引き

2011

人文総合科学インスティテュート
国際プログラム

文学部

Table of Contents

人文総合科学インスティテュート 国際プログラム

I 人文総合科学インスティテュート国際プログラム 教学紹介

| | |
|----------------------------------|----|
| ① 教学理念・目標 | 3 |
| ② 国際インスティテュートとは | 3 |
| ③ 国際プログラムでの学び方（履修の仕方と科目概要） | 4 |
| ④ 履修モデル | 11 |
| ⑤ JWP専門科目の履修と専門英語の早期履修について | 15 |
| ⑥ 研究入門の学び方 | 15 |
| ⑦ 卒業論文について | 16 |
| ⑧ レポート・小論文の書き方 | 18 |
| ⑨ 国際プログラムのみなさんのための参考情報 | 20 |
| ⑩ 参考文献 | 25 |

II 科目一覧及び履修方法

| | |
|--------------|----|
| ① 科目一覧 | 30 |
| ② 履修方法 | 36 |

「教学の手引き」の使い方

「教学の手引き」は、専攻・プログラムにおける皆さんの学びの指針となるものです。毎年配布される履修要項とあわせて、履修に役立ててください。

この「教学の手引き」は、皆さんが卒業するまで使用するものです。再配布はしませんので、大切に保管してください。

記載内容に変更・追加がある場合は文学部ホームページ（URL : http://www.ritsumeijp/lt/lt07_j.html）や掲示で随時発表しますので、定期的に確認をしてください。

I

人文総合科学インスティテュート
国際プログラム 教学紹介

1 教学理念・目標

国際インスティテュートの特長は、文学部が擁する数多い専攻・諸分野をベースに人文学を広く修得すると同時に、立命館大学衣笠キャンパスにある5学部（法・産業社会・国際関係・政策科学・文）が学部の枠組みを越えて提供する国際関連分野のカリキュラム（国際インスティテュート科目）を学び、幅広い人文学的素養を身に付けた国際性豊かな人材を育成するところにあります。

わたしたちがどのような分野で活躍するにしても、各々の行為に歴史的、文化的、思想的な裏打ちがなければ、それぞれの行為の価値は非常に薄いものとなるでしょう。同じ日本人同士のコミュニケーションや人間関係には、お互いの背景に文化や思想といった暗黙の共通項が存在していますが、国際社会における関係はその異なる歴史観や文化的背景、思想の違いを明確にし、そしてそれを尊重することから始まります。そして、国際社会における様々な行為の背景にある価値観が、多様な国際社会の中で尊重されるべきなのかどうか、ということが重視されるのです。そのためには幅広い人文学的素養と高いコミュニケーション能力を身に付けることが必要とされるのです。

教学目標

- ① 国際社会で活躍するために必要な人文学的素養を身に付けます。
- ② 特定の問題を複眼的視野から考察することができる能力を養います。
- ③ 国際性豊かな人材を育成するために高度な外国語能力を養います。
- ④ 国際的な活動の舞台でリーダーとして活躍できる人材を育成します

2 国際インスティテュートとは

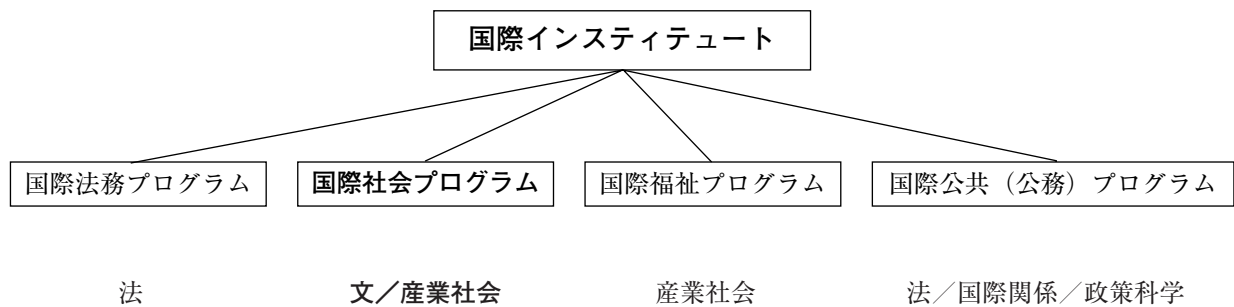
国際インスティテュートは、衣笠キャンパスにある法、産業社会、国際関係、政策科学、文学部に所属する学生が、それぞれの学部で培う専門性を基礎に国際社会へ進路の共通目標を設定して学ぶ教育システムです。本学のインスティテュートは、従来の学問体系をもとにした学部や学科、専攻などの枠組みに該当しない新しい学問分野を創造したり、それらの枠組みを越えて教学の連携をめざすものです。国際インスティテュートは文学部の人文総合科学インスティテュートや、BKCの文理総合インスティテュートに次いで、国際教育の分野で展開する3番目のインスティテュートとして設置されたものです。

国際インスティテュートは、国際社会への進出分野に即した専門科目を学び、専門外国語に力を注ぎながら、これらと連動した海外研修に積極的に取り組みます。また、発展的に大学院での学習につなげることもめざします。取得単位数でいえば国際インスティテュートの30単位は大学で学ぶ総取得単位数の4分の1程度ですが、単位数だけでは測ることのできない幅をもつものとして教学の充実をめざします。

そして国際インスティテュート生は「英語で開講する国際インスティテュート専門科目（JWP科目+専門英語科目）」と「留学先で学ぶ科目」を履修することができます。つまり、4年間の学びのなかで、留学と英語による専門科目の履修とを体系的に組み合わせることによって、本格的な国際化教育が展開されています。

また、学内には学園の国際化を総合的に推進する国際教育・研究推進機構や、学外に開かれた国際平和ミュージアムや国連寄託図書館、ヨーロッパ審議会図書館などがあります。

所属学部が違い、学問分野の異なった学生が共にこのインスティテュートで学ぶことにより、問題発見や課題へのアプローチの姿勢に対して互いに新たな発見をすることでしょう。国際インスティテュートで学ぶ皆さんが、志しを高く勉学を進められることを期待します。



3 国際プログラムでの学び方（履修の仕方と科目概要）

国際プログラムのみなさんは、多様な人文学の諸分野の中から、さらに国際的な視点から自分にあった専門分野やテーマを見つけなければなりません。文学部では10の専攻と5つのプログラムがあります。そして、国際インスティテュート科目も同時に履修していかなければなりません。そうした学修を経て、自分に適したテーマを見つけ出さなければならないのです。そのためにもみなさんは1回生の時点から「4年間の学修の流れ」をイメージすることが求められます。1回生だから1年間のことだけを考えていたら良いというわけではないのです。したがって、この「教学の手引き」は必ず全て読み、みなさんの4年間の学修計画をイメージするよう努めてください。

(1) 学修におけるポイント

人文学諸分野の総合的学修

国際プログラムで開設している「研究入門（1回生）」「基礎講読Ⅰ・Ⅱ（2回生）」では、人文学的エリアスタディ（地域研究）や異文化理解、国際言語文化理解のための基礎的方法論を中心に学びます。それと同時に、他専攻・プログラムの専門科目を積極的に学び、各分野の具体的内容を身に付けてください。人文学の諸分野を学ぶと同時に、将来的にどのような分野を専門として研究対象としていくのか、常々考えるよう習慣付けましょう。

3回生進級時には、演習（ゼミナール）を選択することとなります。この選択するゼミが最終的なみなさん自身の専門領域となります。国際プログラムのみなさんは、文学部のゼミを受講した上で、国際関係学部のゼミを受講することもできます。詳細は後述します。

国際インスティテュートでの学修

国際インスティテュートの科目は、国際関係分野の講義科目である専門科目と外国語運用能力を養成する専門外国語科目の2つに分かれます。専門科目は1回生から始まり、演習形式で行うものと講義形式の科目の2種類あります。演習形式のものは「国際社会フォーラムⅠ（2回生）」で、国際分野での諸テーマについて演習形式で学びます。講義科目は、1回生担当の基礎的なものから担当回生があがるとともにより専門的で特定のテーマの内容となります。国際インスティテュート専門科目は14単位以上、国際インスティテュート専門外国語科目は12単位以上、両方合わせて計30単位以上修得することが卒業の必要条件となっています。

外国語運用能力

文学部の外国語の授業と国際インスティテュートで学ぶ外国語の2つの学修があります。学部の外国語の授業では国際プログラム専用のクラスを設け、徹底的に英語運用能力を高めます。同時に初修外国語も学びます。第1外国語として選択した語種は2回生も学修します。また、より高度な英語運用能力を高めるために、学部独自の副専攻科目群として「英語アドヴァンスト・コース」も開設されています。国際インスティテュートでは、2・3回生時に専門外国語科目が設けられており、目的に応じた外国語学修を進めます。また2005年度より、多くの英語によるJWP専門科目が開講されました。履修には一定の語学力（TOEFL®480点程度）が求められます。

これらの学修を通じ外国語運用能力を徹底的に鍛えてください。どのような知識や立派な意見を持つとも、意思疎通の手段である外国語ができなければ意味がありません。外国語を身につける方法は、まずは長い時間外国語に接することです。外国語学習に近道はありません。時間を惜しむことなく外国語学習に費やしてください。

情報処理能力

人文学における研究にも、情報処理能力は必要不可欠となっています。国際プログラムでは、1回生時は「情報処理入門」で、2回生時は国際プログラムだけの科目「人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ」（2009年度以前入学生のみ受講）で学修します。

(2) 1回生での主な学修

| 分野 | 学 修 の 内 容 |
|--|---|
| 人 文 学 の 学 修 | 研究入門 （コア科目：登録必修） |
| | <p>研究入門はこれからの4年間、みなさんが所属する国際プログラムでの学修・研究方法についての基礎を修得するための小集団科目です。みなさんは4回生時に「卒業論文」あるいは「卒業作品」を作成し、提出しなければなりません。そのための第一ステップとして、研究入門ではみなさん自身の研究テーマの設定の仕方、研究テーマにかかわる先行研究の読み解き方、フィールドワークの作法など基礎的方法論を学修することになります。さらに研究の成果についてのプレゼンテーションの技術、発表資料やレポートの作成方法についても経験的に修得してもらいます。</p> |
| | 各専攻・プログラムの1回生担当専門科目 |
| | <p>文学部では人文学の諸分野を次の5つの領域に整理しています。各専攻・プログラムにある1回生専門科目は、それぞれの学問領域を初めて学ぶ学生のための入門的な講義となっています。積極的に受講して、人文学の各分野での基礎作りに励んでください。各領域に対応する推奨科目は以下のとおりです。1回生ではなるべく多くの分野に接して欲しいので、各領域1科目は受講するようにしたいものです。具体的な内容はオンラインシラバスを参照しましょう。（人文：人文科学総合講座）</p> |
| | A領域：表現文化系 |
| | <p>文学や芸術など、文化として表現される領域です。文学部の専攻では、日本文学、中国文学、英米文学などがこれに該当します。[科目群] 中国文学概論Ⅰ・Ⅱ、英米文学概論Ⅰ・Ⅱ、英語表現概論、アジアの文学（人文）、英語文学（人文）</p> |
| B領域：文書史料系 | |
| <p>主として文書や史料を研究対象とした領域です。文学部の専攻では、日本史学、東洋史学、西洋史学などがこれに該当します。[科目群] 日本史概説Ⅶ・Ⅷ、日本現代史概説Ⅰ・Ⅱ、東洋史概説Ⅳ・Ⅴ、西洋史概説Ⅳ・Ⅴ</p> | |
| C領域：フィールドリサーチ系 | |
| <p>机上だけではなく、屋外のフィールドを研究対象とした領域です。文学部の専攻では、日本史学考古学コース、地理学がこれに該当します。[科目群] 考古学概説Ⅰ・Ⅱ、人文地理学概論Ⅰ・Ⅱ、地誌（世界）Ⅰ・Ⅱ、フィールドリサーチ論（人文）</p> | |
| D領域：行動科学系 | |
| <p>人間を研究対象とした科学的アプローチを主とする領域です。文学部の専攻では、教育人間学、日本文学（日本語学）、英米文学（英語学）、心理学がこれに該当します。[科目群] 日本語学概論Ⅰ・Ⅱ、英語学概論、言語学Ⅰ・Ⅱ（人文）</p> | |
| E領域：メタ思考系 | |
| <p>人間の思考や思想を対象とした領域です。文学部の専攻では、哲学、教育人間（教育哲学）、中国文学（中国哲学）などがこれに該当します。[科目群] 哲学概論Ⅰ・Ⅱ、倫理学概論Ⅰ・Ⅱ、宗教学概論Ⅰ・Ⅱ（人文）</p> | |

| | |
|----------------|---|
| 人文学の学修 | <p>その他、自主学修について【重要】</p> <p>国際プログラムに所属するみなさんの場合、幅広い学修をする反面、他専攻の学生に比し、どうしても特定分野の知識の深化に欠ける面が否めません。しかし、それは個々の自主学修で充分埋め合わせることが可能です。国際的な視点や知識、エリアスタディにかかわる基礎的方法論を修得するために1回生向けに開講されている「エリアスタディ入門」・「文化人類学入門」など総合教養科目の履修を推奨します。また、各領域の推薦図書を「10 参考文献」に記載していますので、1年間に少なくとも各領域2冊程度は読むようにしてください。人文学を学ぶ上で、文献の講読は必要不可欠です。授業だけが学修ではありません。むしろ、授業で得た考え方や疑問、喚起された興味や関心について自ら調べて、自ら考察することこそが大学における学修といえるでしょう。特に国際プログラムに所属するみなさんには自ら学ぶ習慣を身に付けることが重要です。自主学修で積極的に様々な文献を読む習慣を身に付けるようにしてください。</p> |
| 国際インスティテュートの学修 | <p>国際インスティテュート専門科目</p> <p>2回生からの学びの導入科目として、1回生時に「国際社会入門」（コア科目）を履修します。</p> <p>また1回生7月頃専門英語の早期履修（詳細は5「JWP専門科目の履修と専門英語の早期履修について」参照）への申請があります。募集時点でTOEFL480®点程度の語学力が必要とされますが、履修を考えている学生は忘れずに申請をしてください。</p> <p>海外研修</p> <p>国際インスティテュートでは、在学中に、なるべく多くの海外経験を積んでももらいたいと考え、様々な形態の海外研修プログラムを用意していますので、積極的に参加してください。</p> <p>海外研修は、協定校において英語や専門科目を学んだり、現地の地域・文化を体験する「アカデミックラーニングタイプ」、特定のテーマで調査・研修活動を行う「フィールドワークタイプ」、企業や各種機関で就業体験をする「インターンシップタイプ」の3つあります。（一部国内での研修もあります。）</p> <p>時期は、2～3月の冬期休暇期間中、もしくは8～9月の夏期休暇期間中に大別されます。期間は2～5週間、単位は「海外スタディ」もしくは「国内／国外インターンシップ（国際インス専門）」で国際インスティテュート専門科目として認定されます。詳細は、ガイダンスが行われますので、必ず参加するようにしてください。なお1回生が参加できるのは、1回生後期2～3月のプログラムからとなります。</p> <p>参加にあたって、多額の費用が必要で難しい場合もあるかと思えます。しかし、例えば、3回生夏期に参加する目標を1回生後期に定め、アルバイトで1ヶ月2万円貯金すると考えると、18ヶ月×2万円／月＝36万円の積み立ては可能です。決してあきらめずに、長期的な視野に立って、目標の実現に努力しましょう。</p> |
| 外国語 | <p>第1外国語・第2外国語</p> <p>文学部共通で、1回生時に第1外国語、第2外国語をそれぞれ6単位ずつ受講しなければなりません。国際プログラムの場合、第1外国語か第2外国語でかならず英語を選択しなければなりません。</p> |
| アカデミックライティング形成 | <p>リテラシー入門</p> <p>文学部共通の科目で、文章作成能力（アカデミックライティング）およびキャリア形成の基礎を養成する科目です。アカデミックライティングでは半期で3回テーマを定めてレポートを課すなどします。登録必修科目で必ず受講しなければなりません。なおこの科目は、教養科目として認定されます。</p> |

*上記以外にも、1回生から教養科目の履修を進めなければなりません。

(3) 2 回生での主な学修

| 分野 | 学 修 の 内 容 |
|--|---|
| 人 文 学 の 学 修 | <p>基礎講読Ⅰ・Ⅱ (コア科目：登録必修)</p> <p>1 回生での学修で、ある程度みなさん自身の興味や関心が固まってきたと思います。1 回生で学んだことを基礎に、2 回生ではみなさん自身の研究テーマを自らの力で構想し、自身の研究テーマにかかわる専門書や論文を読みこなす力量を養うことを目指します。前期には体系的・基礎的専門書を精読し、その成果を発表。後期では複数の論文を読んで整理し、研究の進展について把握し、その成果を発表することが求められます。</p> |
| | <p>各専攻・プログラムの専門科目</p> <p>この段階になると、かなり興味や関心が定まってきたと思います。その分野の専攻の1・2 回生専門科目を中心に履修すればよいでしょう。2 回生配当で特殊講義が開設されている専攻もありますが、1・2 回生の間にはなるべく概説や概論と呼ばれる科目を多く履修するのが良いでしょう。履修上の注意点としては、古代や中世・近世のテーマを学習することも良いですが、必ずどこかの地域の近現代のテーマを修めるようにしてください。それが国際的視野を広げることに役立ちます。</p> <p>また、2 回生の間に、どのような人文学の学問的手法を身につけようとするのか、よく考えるようにしてください。例えば、歴史的アプローチ、地理学的アプローチ、文化的アプローチ、などが代表的なものとしては考えられます。マスターすべき学問手法は何か、常に考えるようにしましょう。</p> |
| | <p>学部副専攻科目群</p> <p>文学部では学部独自の副専攻科目群として「エリアスタディ（地域研究）副専攻」と実践・ツール系の「イノベーション副専攻」が開設されています（受講制限あり）。4 年間の学修をより体系化するためにもみなさん自身の関心領域や研究テーマにかかわるコースの履修を推奨します。</p> |
| 情 報 処 理 | <p>海外研修</p> <p>文学部ではアメリカ（オレゴン大学）、中国（桂林：広西師範大学）、韓国（釜山：東西大学校）、マレーシア（ペナン：マレーシア科学大学）、イタリア（トリノ大学）を派遣先とする、独自の5つの海外研修・交流プログラムを展開しています（受講制限あり）。いずれも人文学の学びを外国でのフィールド経験を通じて内実化するために開設されたプログラムです。みなさんの4年間の学修をより確かなものにするためにも積極的に参加して下さい。</p> |
| | <p>人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ (登録必修) (2009年度以前入学生のみ)</p> <p>人文学の学びを確かなものにするために、情報処理のスキルを、本科目で獲得します。この科目は登録必修科目で必ず受講しなければなりません。なお、この科目は、教養科目として認定されます。</p> |
| 国 際 イ ン ス テ ィ テ ュ ー ト の 学 修 | <p>国際インスティテュート専門科目</p> <p>【専門外国語】</p> <p>専門外国語の語種選択は、前年度の11月頃に行われます（国際インスティテュート事務局）。選択できるのは、英語、ドイツ語、フランス語、スペイン語、中国語のいずれかで、初修外国語を選択する場合は、1 回生時にその外国語を履修していることが条件です。国際公務員を目指す方はフランス語の習得に励むのが良いでしょう（英語はできて当然です）。</p> <p>英語を選択した場合、「国際社会プログラム英語」（2 回/週）が登録必修科目となりますが、これは1 回生時のTOEFL®・ITPの成績をもとにしたグレード制クラスとなります。</p> |
| | <p>【専門科目】</p> <p>2 回生から、国際インスティテュートの各プログラム特有の科目が開設されます。興味・関心に応じて積極的に受講してください。演習形式の科目は、「国際社会フォーラムⅠ」（コア科目：登録必修）という科目があります。「国際社会フォーラムⅠ」は幾つかのテーマに分けて開講されます。この授業は産業社会学部の国際インスティテュート学生も一緒に受講しますので、異なる視点を持った学生同士とともに積極的に授</p> |

| | |
|--|--|
| 国際 イン ステ イテ ュ ー ト の 学 修 | <p>業に参加してください。国際社会では何事にも積極的に自分の意見を主張しないとけません。これは何も欧米に限ったことではなく、他のアジアの国々やそれ以外の地域の人とコミュニケーションするときも同様です。大学の授業で自分の意見や考え方を表現できないのなら、国際社会で活躍するのは無理と考えた方が良いでしょう。みなさんの積極的な授業参加を望みます。</p> <p>英語による多くのJWP専門科目が開講され、履修には一定の語学力（TOEFL®480点程度）が求められます。英語の運用能力を高めるとともに、国際教養の知識を獲得することをめざしたい学生諸君は積極的に受講してください。</p> <p>国際インスティテュート専門科目の中の幾つかは、他学部の専門科目と同じ授業として開講されます。したがって、3回生になって他学部受講をする場合、同じ授業を受講しないように気をつけましょう。そのような授業の詳細は、「国際インスティテュート学修ガイドブック」のカリキュラム一覧表に記載されています。</p> |
| | <div style="border: 1px solid black; display: inline-block; padding: 2px 5px;">海外研修</div> (1回生での主な学修における記載参照) |

2回生以降にイタリア語の専門的履修を希望する学生へ

現在のところ、国際インスティテュートでは専門外国語としてイタリア語を設置していません。したがって、イタリア語を2回生以降も継続して学習していこうと希望する学生は、以下のような科目を選択してみてください。

(1) 2回生以上配当科目

- ・「イタリア文化講義Ⅰ・Ⅱ」(エリアスタディ副専攻イタリアコース科目)
- ・「イタリアの言語とコミュニケーション・応用Ⅰ」(エリアスタディ副専攻イタリアコース科目)
- ・「イタリアの言語とエクスプレッション・応用Ⅰ」(エリアスタディ副専攻イタリアコース科目)
- ・「人文総合科学外書講読(伊)Ⅰ、Ⅱ」(学際プログラム専門科目)

(2) 3回生以上配当科目

- ・「イタリア文化研究」(エリアスタディ副専攻イタリアコース科目)
- ・「イタリアの言語とコミュニケーション・応用Ⅱ」(エリアスタディ副専攻イタリアコース科目)
- ・「イタリアの言語とエクスプレッション・応用Ⅱ」(エリアスタディ副専攻イタリアコース科目)
- ・「人文総合科学外書講読(伊)Ⅲ・Ⅳ」(学際プログラム専門科目)

エリアスタディ副専攻イタリアコースの当該科目はいずれも初級を1回生で終了していることが前提となっており、イタリア語の専門的な学習を望む学生は、1回生の第二外国語の選択において必ずイタリア語を選ぶよう、計画的な履修をおこなってください。

なお、イタリアコースの詳細については文学部全体の「履修要項」、外書講読に関してはオンラインシラバスの「学際プログラム」の該当箇所を参照ください。

(3) 3 回生での主な履修

| 分野 | 学 修 の 内 容 |
|----------------|---|
| 人文学の学修 | <p>ゼミ (演習) (コア科目：登録必修)</p> <p>2009年度以降入学生のみなさんは、ゼミ (演習) として「国際プログラム演習 I」もしくは「テーマリサーチ型ゼミナール I」から、いずれかのゼミナールを選択して受講しなければなりません。これらのゼミは基本的に複数受講も可能なので、2 回生後期に開催される文学部ゼミ説明会もしくは文学部事務室で詳しい情報を確認してください。</p> <p>各専攻・プログラムの専門科目</p> <p>この段階になると、すでにみなさんが身につけると意図している学問手法のイメージはできているでしょう。その分野の専門科目を学修するようにしましょう。特殊講義などの特定のトピックを扱うものも積極的に履修してください。また、人文科学総合講座の「外国文化講読」(通年 4 単位) は学部共通の登録必修となっていますので、忘れずに履修しましょう (2008年度以前入学生のみ)。第 1 外国語のものを選択することとなります。</p> |
| 国際インスティテュートの学修 | <p>国際インスティテュート専門科目</p> <p>【専門外国語】</p> <p>2 回生時に選択した専門外国語の学修を進めます。英語を選択した場合、「国際社会プログラム上級英語」(2 回/週) が登録必修科目となりますが、これは 2 回生時の TOEFL®・ITP の成績をもとにしたグレード制クラスとなります。</p> <p>【専門科目】</p> <p>講義科目については 2 回生と同様ですが、なるべく人文学の学修と関連付けられる科目を選択するのがよいでしょう。</p> <p>国際関係学部の演習</p> <p>国際インスティテュートの科目ではありませんが、国際プログラムのみなさんは国際関係学部の演習を受講することができます。これは自由選択分野に単位認定されます。文学部の演習を受講しながら他の学部の演習を履修するのは大変なことと思いがちですが、そんな事はありません。何事もチャレンジです。国際プログラムの学生なら、可能な限り積極的に履修するようにしてください。ただし、国際関係学部の卒業論文を登録することはできません。</p> <p>参考) 2011年度国際関係学部専門演習選考スケジュール (2010年度実施)</p> <p>〈選考日程〉</p> <p>10月中旬 演習募集ガイダンス</p> <p>11月 8 日 (月) 第一次申請締切</p> <p>11月 23 日 (火) 第一次合格発表、第二次募集クラス発表</p> <p>12月 3 日 (金) 第二次申請締切</p> <p>12月 14 日 (火) 第二次合格発表</p> <p>*2012年度以降の選考については掲示板や国際関係学部のHPで確認してください。</p> |

(4) 4回生の履修

4回生での履修で一番重要なのは、「国際プログラム演習Ⅱ」（コア科目：必修）で卒業論文（テーマリサーチ型ゼミナールⅡではゼミによって論文の形式を取っていない場合もあります）を作成することです。学部レベルでも、ひとつの学術論文（もしくはそれに匹敵するもの）を完成することは大変なことです。4年間の学修の集大成をこの演習で表現して欲しいと思います。

(5) 2011年度テーマリサーチ型ゼミナール開講テーマ一覧（3回生ゼミのみ掲載、テーマは年度ごとに変更されます。）

| テ ー マ |
|-------------------------|
| 道具の研究 |
| 奄美・沖縄の文化に学ぶ |
| 中国映画から現代中国の文化を考える |
| 地中海世界の歴史と文化 |
| 世界の文化と多言語多文化社会における共生 |
| THEMES IN ASIAN STUDIES |
| 京都の年中行事と文学 |
| 意識の人間学（心の人間学） |
| 説き方の表現と教育心理学 |

(6) 国際プログラムにおける学修上の注意事項

- ・ 全学副専攻の履修

国際インスティテュートの皆さんは、全学で募集する副専攻は履修できません。

4 履修モデル

モデル1：国際観光分野

| 科目 区分 学年 | 必修科目 | 登録必修科目 | 選択科目 | | |
|----------------|--|--|---|--------------------------------|--|
| | | | 専攻科目 | インベーション副専攻 ツーリズム・コース | 教養科目・他専攻・ 人文科学総合講座等の科目 |
| 1 回生 | | 国際プログラム研究 入門 ----- リテラシー入門(教養) 国際社会入門(国際) 海外スタディ(国際) | | | エリアスタディ入門(教養) 文化人類学入門(教養) 文化人類学Ⅰ・Ⅱ(学際) 現代の国際関係と日本(教養) イスラーム世界の多様性(教養) 歴史観の形成(教養) 社会学入門(教養) 地誌(世界)Ⅰ・Ⅱ(地理) グローバルヒストリー(学際) 比較文化講義Ⅰ・Ⅱ(学際) |
| 2 回生 | | 国際プログラム基礎 講読Ⅰ・Ⅱ 2009年度以前入学生 の場合：人文総合 科学情報処理Ⅰ ・Ⅱ 国際社会フォーラ ムⅠ(国際) | 人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ 宗教と国際社会 フィールドリサーチ論 移動と文化変容 ----- 国際社会プログラム英語(国際) 英語プロジェクト研究Ⅰ 社会分野英語 専門中国語Ⅰ～Ⅳ(国際) 専門フランス語Ⅰ～Ⅳ(国際) 専門ドイツ語Ⅰ～Ⅳ(国際) 専門スペイン語Ⅰ～Ⅳ(国際) ----- 国際文化論(国際) 国際社会論(国際) エスニシティとネーション(国際) 他者認識の歴史(国際) 多文化共生論(国際) 特殊講義(国際) 国内インターンシップ(国際) 海外インターンシップ(国際) ----- JWP科目(国際) *選択科目群(別紙参照) | ツーリズム学概論Ⅰ・Ⅱ ツーリズム学実習Ⅰ | 文化地理学(地理) 世界の言語(学際) 社会学概論Ⅰ・Ⅱ(人文) 比較地域論(人文) |
| 3 回生 | | 2009年度以降入学生 の場合：国際プロ グラム演習Ⅰも しくはゼミナールⅠ (テーマリサーチ) 2008年度以前入学生 の場合：ゼミナール Ⅰ(テーマリサーチ) もしくは学際プロ グラムの演習Ⅰ・外国 文化講読(人文) | 国際社会プログラム上級英語(国際) 英語プレゼンテーションと討議(国際) ----- 英語プロジェクト研究Ⅱ(国際) 専門中国語Ⅴ～Ⅷ(国際) 専門フランス語Ⅴ～Ⅷ(国際) 専門ドイツ語Ⅴ～Ⅷ(国際) 専門スペイン語Ⅴ～Ⅷ(国際) 国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ(国際) | ツーリズム学特殊講 義Ⅰ・Ⅱ ツーリズム学実習Ⅱ | 観光学(教養) 民族誌の諸問題(学際) 人文科学のための情報処理 応用(人文) 人文総合科学外書講読Ⅲ・ Ⅳ(学際) |
| 4 回生 | 2009年度以 降入学生の場合： 国際プログラム 演習Ⅱもしくは ゼミナールⅡ (テーマリサーチ) 2008年度以 前入学生の場合： ゼミナールⅡ (テーマリサーチ) もしくは学 際プログラムの 演習Ⅱ 卒業論文・卒業 作品 | | | | |

このモデルのテーマ：国際的な視点、国際教養・高度な外国語運用能力を獲得しながら、観光(ツーリズム)関連科目を履修する。
凡例：国際インスティテュート科目(国際)；教養科目(教養)；人文科学総合講座(人文)；学際プログラム(学際)；地理学専攻(地理)

モデル 2：国際協力・NGO 分野

| 科目区分 学年 | 必修科目 | 登録必修科目 | 選択科目 | |
|------------|---|--|---|---|
| | | | 専攻科目 | 教養科目・他専攻・人文科学総合講座等の科目 |
| 1 回生 | | 国際プログラム研究入門 リテラシー入門（教養） ----- 国際社会入門（国際） 海外スタディ | | エアスタディ入門（教養） 文化人類学入門（教養） 文化人類学Ⅰ・Ⅱ（学際） 現代の国際関係と日本（教養） イスラーム世界の多様性（教養） 歴史観の形成（教養） 社会学入門（教養） 地誌（世界）Ⅰ・Ⅱ（地理） グローバルヒストリー（学際） 比較文化講義Ⅰ・Ⅱ（学際） |
| 2 回生 | | 国際プログラム基礎講読Ⅰ・Ⅱ 2009 年度以前入学生の場合： 人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ ----- 国際社会フォーラムⅠ（国際） | 人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ 宗教と国際社会 フィールドリサーチ論 移動と文化変容 ----- 国際社会プログラム英語（国際） 英語プロジェクト研究Ⅰ 社会分野英語 専門中国語Ⅰ～Ⅳ（国際） 専門フランス語Ⅰ～Ⅳ（国際） 専門ドイツ語Ⅰ～Ⅳ（国際） 専門スペイン語Ⅰ～Ⅳ（国際） ----- 国際社会論（国際） 国際協力特論（国際） NGO ボランティア組織論（国際） 国際人権法（国際） 社会開発論（国際） 第三世界とジェンダー論（国際） 第三世界政治論（国際） 国際開発援助論（国際） 国際福祉社会論（国際） アジアの福祉研究（国際） 国際教育援助論（国際） グローバル・ガバナンス（国際） エスニシティとネーション（国際） 他者認識の歴史（国際） 多文化共生論（国際） 特殊講義（国際） 国内インターンシップ（国際） 海外インターンシップ（国際） ----- JWP 科目（国際） * 選択科目群（別紙参照） | 地誌（世界）Ⅰ・Ⅱ（地理） 社会学概論Ⅰ・Ⅱ（人文） 比較地域論（人文） |
| 3 回生 | | 2009 年度以降入学生の場合： 国際プログラム演習Ⅰ もしくはゼミナールⅠ（テーマリサーチ） 2008 年度以前入学生の場合： ゼミナールⅠ（テーマリサーチ） もしくは学際プログラムの演習Ⅰ・外国文化講読（人文） | 人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ 国際社会プログラム上級英語（国際） 英語プレゼンテーションと討議（国際） 英語プロジェクト研究Ⅱ（国際） 専門中国語Ⅴ～Ⅷ（国際） 専門フランス語Ⅴ～Ⅷ（国際） 専門ドイツ語Ⅴ～Ⅷ（国際） 専門スペイン語Ⅴ～Ⅷ（国際） 国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ（国際） | |
| 4 回生 | 2009 年度以降入学生の場合： 国際プログラム演習Ⅱ もしくはゼミナールⅡ（テーマリサーチ） 2008 年度以前入学生の場合： ゼミナールⅡ（テーマリサーチ） もしくは学際プログラムの演習Ⅱ 卒業論文・卒業作品 | | | |

このモデルのテーマ：国際的な視点、国際教養・高度な外国語運用能力を獲得しながら、多文化共生・国際協力に関連する科目を履修する。
凡例：国際インスティテュート科目（国際）；教養科目（教養）；人文科学総合講座（人文）；学際プログラム（学際）；地理学専攻（地理）

モデル3：海外関連企業・英語教員分野

| 科目 区分 学年 | 必修科目 | 登録必修科目 | 選択科目 | | |
|----------------|--|--|---|--|--|
| | | | 専攻科目 | インベーション副専攻 英語アドヴァンスト・コース | 教養科目・他専攻・ 人文科学総合講座等の科目 |
| 1 回生 | | 国際プログラム研究 入門 リテラシー入門(教養) 国際社会入門(国際) 海外スタディ | | | エリアスタディ入門(教養) 文化人類学入門(教養) グローバルヒストリー(学際) 英語表現概論(英米) |
| 2 回生 | | 国際プログラム基 礎講読Ⅰ・Ⅱ 2009年度以前入 学生の場合：人文総合 科学情報処理Ⅰ・Ⅱ 国際社会フォー ラムⅠ(国際) | 人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ 国際社会プログラム英語(国際) 英語プロジェクト研究Ⅰ 社会分野英語 国際文化論(国際) 国際社会論(国際) エスニシティとネーション(国際) 他者認識の歴史(国際) 多文化共生論(国際) 特殊講義(国際) 国内インターンシップ(国際) 海外インターンシップ(国際) JWP科目(国際) *選択科目群(別紙参照) | Study Skills for ResearchⅠ・Ⅱ Academic Writing & PresentationⅠ・Ⅱ English Reading & DiscussionⅠ・Ⅱ | 英米文学概論Ⅰ・Ⅱ(英米) 英語表現特殊講義Ⅰ・Ⅱ (英米) 世界の言語(学際) |
| 3 回生 | | 2009年度以降入学生 の場合：国際プログ ラム演習Ⅰもしくは ゼミナールⅠ(テ ーマリサーチ) 2008年度以前入学生 の場合：ゼミナール Ⅰ(テーマリサーチ) もしくは学際プログ ラムの演習Ⅰ・外国 文化講読(人文) | 人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ 国際社会プログラム上級英語(国際) 英語プレゼンテーションと討議(国際) 英語プロジェクト研究Ⅱ(国際) 専門中国語Ⅴ～Ⅷ(国際) 専門フランス語Ⅴ～Ⅷ(国際) 専門ドイツ語Ⅴ～Ⅷ(国際) 専門スペイン語Ⅴ～Ⅷ(国際) 国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ(国際) | Cultural StudiesⅠ～Ⅳ Field Research Thesis WritingⅠ・Ⅱ | |
| 4 回生 | 2009年度以降 入学生の場合： 国際プログラ ム演習Ⅱもし くはゼミナ ールⅡ(テ ーマリサー チ) 2008年度以 前入学生の場合： ゼミナールⅡ (テーマリサ ーチ)もし くは学際プロ グラムの演習Ⅱ 卒業論文・卒 業作品 | | | | |

このモデルのテーマ：国際的な視点、国際教養・高度な外国語運用能力を獲得しながら、英語関連科目をより多く履修する。
凡例：国際インスティテュート科目(国際)；教養科目(教養)；人文科学総合講座(人文)；学際プログラム(学際)；英米文学専攻(英米)

モデル4：日本語教員分野

| 科目 区分 学年 | 必修科目 | 登録必修科目 | 選択科目 | | |
|----------------|---|--|---|----------------------------|--|
| | | | 専攻科目 | インベーション副専攻 日本語教員養成コース科目 | 教養科目・他専攻・ 人文科学総合講座等の科目 |
| 1 回生 | | 国際プログラム研究 入門 リテラシー入門 (教養) 国際社会入門 (国際) 海外スタディ | | | エリアスタディ入門 (教養) 文化人類学入門 (教養) グローバルヒストリー (学際) 日本語学概論Ⅰ・Ⅱ (日文) 日本語文化概論Ⅰ・Ⅱ (日文) |
| 2 回生 | | 2009 年度入学生の場合：国際プログラム基礎講読Ⅰ・Ⅱ 2008 年度以前入学生の場合：人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ 人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ 国際社会フォーラムⅠ (国際) | 人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ 国際社会プログラム英語 (国際) 英語プロジェクト研究Ⅰ 社会分野英語 専門中国語Ⅰ～Ⅳ (国際) 専門フランス語Ⅰ～Ⅳ (国際) 専門ドイツ語Ⅰ～Ⅳ (国際) 専門スペイン語Ⅰ～Ⅳ (国際) 国際文化論 (国際) 国際社会論 (国際) エスニシティとネーション (国際) 他者認識の歴史 (国際) 多文化共生論 (国際) 特殊講義 (国際) 国内インターンシップ (国際) 海外インターンシップ (国際) JWP 科目 (国際) * 選択科目群 (別紙参照) | 日本語教育学Ⅰ・Ⅱ 日本語教授法基礎演習 | 日本語と文化Ⅰ・Ⅱ (日文) 日本語と社会Ⅰ・Ⅱ (日文) 世界の言語 (学際) |
| 3 回生 | | 2009 年度以降入学生の場合：国際プログラム演習ⅠもしくはゼミナールⅠ (テーマリサーチ) 2008 年度以前入学生の場合：ゼミナールⅠ (テーマリサーチ) もしくは学際プログラムの演習Ⅰ・外国文化講読 (人文) | 人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ 国際社会プログラム上級英語 (国際) 英語プレゼンテーションと討議 (国際) 英語プロジェクト研究Ⅱ (国際) 専門中国語Ⅴ～Ⅷ (国際) 専門フランス語Ⅴ～Ⅷ (国際) 専門ドイツ語Ⅴ～Ⅷ (国際) 専門スペイン語Ⅴ～Ⅷ (国際) 国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ (国際) | 日本語教授法演習 日本語史 | |
| 4 回生 | 2009 年度以降入学生の場合：国際プログラム演習ⅡもしくはゼミナールⅡ (テーマリサーチ) 2008 年度以前入学生の場合：ゼミナールⅡ (テーマリサーチ) もしくは学際プログラムの演習Ⅱ 卒業論文・卒業作品 | | | | |

このモデルのテーマ：国際的な視点、国際教養・高度な外国語運用能力を獲得しながら、日本語教育関連科目をより多く履修する。
 凡例：国際インスティテュート科目 (国際)；教養科目 (教養)；人文科学総合講座 (人文)；学際プログラム (学際)；日本文学 (日文)

5 JWP専門科目の履修と専門英語の早期履修について

国際インスティテュートでは2005年度よりJWP (Japan and World Perspectives) プログラムを開設し、“英語による専門科目の履修”と“海外留学”を奨励しています。

このプログラム（制度）は、みなさんが“英語で専門性を涵養する”ことと“学んだことを英語で発信する”能力を身につけることを目的としています。そのために、留学生とともに学ぶ「JWP専門科目」、JWP履修生優先派遣の「JWP交換留学」を設置し、みなさんの積極的な学修を促しています。

JWP専門科目とは

国際インスティテュート専門科目のうち、科目名称の最初に（JWP）が付いている科目が該当します。この科目は立命館大学が受け入れる世界各国からの留学生（短期留学生）も一緒に受講します。授業は全て英語で行われ、双方向型（ディスカッション形式）授業はTOEFL®-ITP/PBT530点、講義型授業は480点が受講の目安となります。

海外留学先と同じ感覚で受講できますので、留学に備えての受講、留学後の語学力の維持を目指しての受講など、積極的に活用して下さい。この科目は2回生から受講できます。

JWP交換留学については、国際インスティテュートの学修ガイドブックを参照して下さい。

専門英語の早期履修とは

TOEFL®480点以上のスコアを有する国際インスティテュート1回生が、専門英語科目（専門外国語の英語科目）を1 Semester前倒しで、1回生後期より履修をスタートすることができる制度です。2回生時から始まる英語による専門科目「JWP専門科目」を受講する力を早く習得できるほか、2回生後期から積極的に海外留学に挑戦することを目標にしています。

6 研究入門の学び方

（1）研究入門とは

「研究入門」は、どの専攻・プログラムでも1回生から4回生のゼミ・卒業論文作成に至る4年間のカリキュラムの第1歩に位置付けられる重要な授業です。国際プログラムでは人文学の多様な学修を通じて、より高度な国際的あるいはグローバルな視点、総合的な知識や視野を獲得することを目的としていますが、この「研究入門」では、その多様な人文学の学問的手法、誤解を恐れずに簡略化して言うと、国際的あるいはグローバルな視点からの“物事に対する見方・考え方、アプローチの方法”を学びます。ここで誤解して欲しくないのは、研究入門で学ぶことはあくまで「考え方」であって、「知識の習得」を目的としていない、という点です。これが高校までの学習方法と大きく異なる点です。では、知識はどこで身に付けるかというと、通常の専門科目の講義でも良いのですが、特に重要なのが本を読むことです。人文学の学問分野に属する図書は、それこそ星の数ほどありますが、まず1回生時で読んでおいて欲しい図書は推薦図書として「[10](#)参考文献」に記載しています。可能な限り読むようにして下さい。大学では、特に幅広い分野を学ぶ国際プログラムでは、自主的な学修が肝要なのです。

（2）研究入門の内容

さて、本題の研究入門の内容に入りましょう。

人文総合科学研究入門では、①研究テーマ・研究対象地域の設定→②研究テーマ・研究対象地域に関する文献研究／④研究テーマにかかわる方法の学修→⑤研究対象地域での現地調査を想定したフィールドワークの技法・方法→⑥研究成果の発表／討議→⑦研究レポートの作成という一連の学問的方法を経験的に修得することを目指します。なお、レポートの書き方は、「[8](#)レポート・小論文の書き方」にありますので、必ずよく読んでおいてください。

7 卒業論文について

卒業論文提出までの手続きについては履修要項の「『卒業論文』の提出について」を参照してください。

人文総合科学インスティテュート学際プログラム「卒業論文」の体裁について(2008年度以前入学生)

| | | 言語文化、芸術表象、歴史人類の各領域 |
|--------------|-----------|---|
| 原稿用紙に手書きする場合 | | A4判「立命館大学論文用紙」(縦長) |
| | 縦書・横書の指定 | 横書 |
| | 枚数 | 400字原稿用紙換算で30枚以上、50枚程度を目途とする。上限はもうけない。 |
| | その他の注意 | 黒または青のペンを使用すること。 |
| ワープロを使う場合 | | A4判白紙(縦長) |
| | 縦書・横書の指定 | 横書 |
| | 文字数に関する指定 | 1行あたりの文字数・1頁あたりの行数：ゼミ指導教員の指示に従うこと。 |
| | 枚数等に関する指定 | 400字原稿用紙換算で30枚以上、50枚程度を目途とする。上限はもうけない。 |
| | その他の注意 | 上下左右のマージンが2～3cm 1頁あたりの文字数が1,200～1,400字 文字は10または10.5ポイント程度の大きさで、明朝などの一般的フォントを使うこと。 |
| 表紙等に関する体裁 | | ゼミ指導教員の指示に従うこと。 |
| | 大きさ | A4 |
| | 綴じ辺 | 短辺綴じ(上辺綴じ)もしくは長辺綴じ(左辺綴じ) |
| | 題目シール | 指定なし 表紙に題目、学生証番号、氏名を所定の方法で記入 |
| 部数 | | 3部作成し、2部を提出する。(1部は本人手元保存) |

その他詳細は指導教員の指示や、学際プログラムの教学の手引きを閲覧するなどして確認してください。

国際プログラム演習「卒業論文」の体裁について(2009年度以降入学生)

| | | |
|-----------|-----------|---|
| 本文の体裁 | | A4版白紙(縦長) 原則としてワープロを使用すること。 |
| | 縦書・横書の指定 | 横書 |
| | 文字数に関する指定 | 1行あたりの文字数：40字。1頁あたりの行数：指導教員の指示に従うこと。 |
| | 枚数等に関する指定 | 400字原稿用紙換算で31枚以上50枚以下とする。 英文の場合、65ストローク×25行、A4用紙15枚以上30枚以下とする。 |
| | その他の注意 | 目次を巻頭に付し、注と参考文献表を巻末に付すこと。ただし、これらは枚数には含まれない。上マージンは60mm程度、下・左右マージン30mm程度。その他詳細は指導教員の指示に従うこと。 |
| 表紙等に関する体裁 | | フラットファイル(色指定なし) |
| | 大きさ | A4 |
| | 綴じ辺 | 短辺綴じ(上辺綴じ) |
| | 題目シール | 生協で卒論用に販売している「題目シール」に記入し、貼付。 |
| 部数 | | 必ず2部提出すること。添付資料がある場合は、全ての資料を1冊にまとめたうえで、同じ内容の冊子を2部作成し、それぞれの表紙に題目、学生証番号、氏名と「別冊資料」である旨を記入すること。 |

テーマリサーチ型ゼミナールにおける卒業論文（卒論形式・非卒論形式）の提出について

テーマリサーチ型ゼミナールでは、従来のような卒業論文の提出（卒論形式）もありますが、クラスによっては、卒論形式に代えて、共同で制作物（成果物）を仕上げ提出する「非卒論形式」もあります。必ずクラス内で担当教員に、いずれかの形式なのかを確認してから作成してください。

◆体裁について

| | | |
|-------------|-----------|---|
| 卒論形式で制作の場合 | 文書体裁 | 字数：12,000字以上20,000字以下 英文の場合：65ストローク×25行、A4用紙15枚以上30枚以下 ファイル形式・書式・用紙の大きさなど：クラス担当者の指示に従うこと。 必ず 2部 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず 2部 提出すること。 |
| | 表紙等に関する体裁 | 題目、学生証番号、専攻、プログラム、氏名を必ず記載すること。 |
| | その他の注意 | 学生本人のみの執筆による単著であること。共同執筆の類はこれに該当しない。 |
| 非卒論形式で制作の場合 | 文書・表紙体裁 | 体裁についてはクラス担当者の指示に従うこと。 必ず 2部 提出すること。添付資料がある場合は、添付資料も同様に必ず 2部 提出すること。 |
| | その他の注意 | 1. 制作物（成果物）には題目、学生証番号、専攻・プログラム、氏名を必ず記載するか添付すること。また、審査教員シールを貼付すること（貼付箇所は自由）。 2. 制作物（成果物）とともに、4,000字以上の個人レポートを提出すること。 ※制作物（成果物）と個人レポートの両方を提出して初めて「卒論提出」となる。 ※個人レポートの表紙裏にも審査教員シールを貼付すること。 3. 口頭試問に相当するものとして、「卒業制作発表会（仮称）」を実施することがある。実施日については、担当教員の指示に従うこと。 |

◆上記の他の提出に関する諸注意は基本的に履修要項の「『卒業論文』の提出について」に従ってください。

8 レポート・小論文の書き方

文章を書く力は知の大きな柱です。私たちは書きながら考え、考えながら書きます。書くことと考えることはコインの裏表です。書くことで思考は鍛えられ、思考は現実のものとなります。国際プログラムでは書く力を育てることをとりわけ大切にしています。それは書く力が学ぶ力を支えているというだけでなく、卒業後、みなさんが国際社会の各分野で活躍するとき、大きな力となると考えるからです。

(1) レポートと小論文

レポートと小論文はどちらも大学では学習の一環として課される、あるいは試験に代えて達成度を測るために課される課題作文のことで、レポートと小論文についての明確な定義はありません。人によって同じ意味で使う人もいれば、区別して使う人もいます。

このようにその意味が明確でないのは、その成り立ちに原因がありそうです。「レポート」ということばは和製英語です。英語のreportはできごとや活動を説明した「報告」のことで、授業で提出する課題はpaperとよびます。ペーパーはある主題について実証的に論じたもので、学術論文の形式にのっとったものを指します。「小論文」は入試などで課される課題作文という意味で使われるようになったのがその始まりです。これはかなり最近、教育界で使われるようになったことばで、国語辞典にもまだ記載はありません。英語では授業で提出する課題作文のことをessayと言います。これはペーパーほど厳密ではないものの、ある主題について実証的に論述したものを指します。私たちが小論文とよぶものは英語のessayにほぼ相当します。

(2) 文章には目的がある

どのような文章にも目的があります。その目的は大きく、「読者を楽しませる」「読者を説得する」「読者に知識を伝える」という3つに分けることができます。物語や随筆などは文章を読むことそのもの楽しさがあります。これは読者を楽しませる目的で書かれたものです。広告や選挙公報の文章は読者になんらかの行動を起こさせる目的で書かれています。新聞や雑誌の記事、大学で教科書として読むような本は知識を伝えるのが目的です。また、知識を伝えながら説得するというふうに、複数の目的が重ねて使われる場合もあります。

レポートと小論文の目的は知識を伝えるところにあります。レポートも小論文も単に自分の思いを述べた作文ではないという点が大切なところです。文章がいかにおもしろくても、主張に熱がこもっていても、知識を伝えていなければレポート、小論文とはよべません。正しく、わかりやすく、切れ味鋭く知見を伝えるのがレポートと小論文の役目です。

(3) 新たな知見

レポート、小論文が伝える知識は新たな知見でなければなりません。私たちが文章を読むのはそこに新たな知見があるからです。「日本国憲法の大きな柱のひとつは平和主義だ」というのは私たち共通の知識です。しかし、このことをそのまま書いてもレポート、小論文とは言えません。だれもがすでに知っている内容をあらためて文章化しても、それを読もうとする人はいないでしょう。読者に読ませるためには、読者の目を開かせる新しい知見がなければなりません。たとえば、軍隊を持たないコスタリカの憲法と比べて論じれば、日本国憲法は世界的に先進的な内容をもつ憲法で、「その第9条は世界の人々から高く評価されている」という知見を展開できるでしょう。

この新たな知見というのは「大発見」がなければ小論文ではないという意味ではありません。小論文の小論文たるゆえんは、そこに小さくてもきらりと光る新しい知見があるということです。小さなことではあっても、そこから大きく広がる可能性をもった知見を探ることが大切です。

(4) 実証性

小論文が小論文として成立するためには、新たな知見のほかに実証性が必要です。実証性とは単なる思いつき、主観ではなく、証拠立てて、だれもが納得できるように論議をすることです。これは小論文と感想文を比べてみるとよくわかります。

感想文には実証性は求められません。映画を見ての感想、本を読んだ感想、旅行をしての感想、どれも人によ

って異なります。同じグループで旅行をして、その感想文を書けばみんな内容は違っているでしょう。明媚な風光に心動かされた人、その土地の食べ物に思い出を残した人、仲間とのおしゃべりが一番楽しかった人などさまざまです。そのうちのどの感想が正しかったのかと問うのは意味のないことです。感想は主観的であることがゆえに感想です。

これに対し、学術的なペーパーとよばれるものはその実証性が身上です。豊かな日本でホームレスとよばれる人々に代表されるように貧困に苦しむ人々が数多くいます。なぜ豊かな社会で貧困に苦しむ人々が存在するのか。それに対して、「家族制の崩壊が原因だ」「競争社会の悲劇だ」「怠け者だからだ」などと意見を言うことはできます。しかし、それは感想に過ぎません。ホームレスとよばれる人々は以前から存在したのか、いつから増えたのか、その背景は何だったのか。これは感想では解決できません。現代日本の社会構造の変化を緻密に調べ上げ、場合によればホームレスの人々に面談しながらその背景を突き止めていかなければなりません。つまり、実証によってあきらかにしていかなければなりません。この実証性こそが学術の身上です。

(5) 分野によって異なるアプローチ

人文科学は広い領域で、扱う対象が多岐にわたります。文献、史料をもとに研究を行う表現文化系、文書史料系であっても文献、史料の見方、扱い方には違いがあります。文学では文献に表れた表現、内容そのものが研究対象となるのに、歴史ではその裏にある事実を見ようとします。心理学、言語学のような行動科学系では数値化されたデータをもとにモデルを構成するという手法がよく使われます。一口に人文科学とは言っても、その手法には大きな違いがあります。

このため、人文科学においては実証性へのアプローチに大きな違いがみられます。表現文化系ではその研究手法のなかに「データ」ということばはあまり出てきません。行動科学系のアプローチには逆に「作品を読む」という言い方はまず出てきません。同じ学術的実証性を志向してはいても、そのアプローチには大きな違いがあるのです。ペーパーの書き方にも分野により違いがあります。言語という同じ分野について見ても、英語で書く場合には文学系では現代語協会というところが定めた書式で書きます。しかし、応用言語学系ではアメリカ心理学会が定めた書式で書くことが一般的です。このふたつの書式はペーパーの構成、書誌情報の記載など大きく異なっています。人文科学系それぞれの分野の教員の指導にしたがって書き方を学んでください。

(6) 良質の文章を読む

私たちの書く力は読む力を超えることはできません。一般に文章を書いた後はしばらく時間をおいて読み直し、推敲を行います。書く力より読む力の方が高いので、自分で書いた文章であっても、読んでみると、その欠陥がよく見えてきます。このため、書いた文章は自分が読者となって推敲できるのです。

書く力を高めるためには読む力を高めなければなりません。このためには良質の文章をたくさん読み、深く考える努力を重ねることが必要です。また、そこからわかりやすい、切れ味鋭い文章を書く秘訣を学ぶこともできます。

文章の書き方についての本を読むことも勧められます。人文科学は広い領域の分野ですから、どの分野にも共通に使える解説書をあげるのはむずかしいことです。しかし、文章を書くということがどのようなことかを具体例で教えてくれる本として薦めたい本があります。井上ひさしほか『井上ひさしと141人の仲間たちの作文教室』（新潮文庫 い-14-29）は小さな文庫本ながら、作家、井上ひさし氏の知恵を凝縮して見せてくれる本です。

(7) 辞書を手元に

文章を書く場合には手元に辞書を置いておきます。これには漢字を正しく書くということだけでなく、もっと大切な意味があります。たとえば、みなさんは「右」をわかりやすく説明することはできますか。辞書はどのようなことばでも正確に、わかりやすく説明するために心血をそそいでいます。そこから、わかりやすい、切れ味鋭い表現を学ぶことができます。また、「古い」という意味を表す場合、どんな場合でも「古い」で間に合わせてしまうのではなく、その意味によって「古びた」「かび臭い」「年季の入った」「時代がかかった」「前時代的な」「古拙な」など言い分けること大切です。これはどれだけ細かく対象を観察できるか、その人の力の表れです。辞書を使わずに文章を書くのは、嵐の海にボートでこぎ出そうとするのと同じ無謀なことです。船乗りが羅針盤を使って航路を定めたように、私たちも辞書を羅針盤として文章を書くことを心がけましょう。

9 国際プログラムのみなさんのための参考情報

ここでは国際プログラムの学生のみなさんに共通する興味ある情報を紹介します。なお、自身で興味ある事柄については、自身で積極的に情報収集することが重要ですので、これに頼らずに、みなさん自身が様々な手段で情報を収集してください

1. 海外留学

海外留学を目指している方も多いと思います。在学中に、海外留学に行く方法は、大学を休学していく方法と、本学が海外の大学・大学院と結んでいる提携を利用して2通りあります。2つの大きな違いは、学年の進行と単位の認定です。前者は、休学期間中は回生が進みませんが、後者は留学中も回生が進みます。また、前者は基本的に単位認定をしません、後者は可能なものは単位認定をします。(詳細は、個別事例によって異なることもあります。)

ここでは、後者の海外留学のケースについて、簡単に紹介します。留学についての詳細は、国際部(明学館1階)で相談できます。また、「外国留学の手引き」という冊子も国際部で配付しています。

① **立命館・UBCジョイントプログラム**(以下のプログラム内容は変更される可能性がありますので、必ず「外国留学の手引き」や「募集要項」で最新の内容を確認してください。)

(1) 立命館・UBCジョイントプログラムとは

立命館大学とカナダのバンクーバーにあるブリティッシュ・コロンビア大学(UBC)が共同で開発した独自のカリキュラムに基づき、2回生を中心とした100名の学生がUBCキャンパスで言語教育科目やコア科目、及びUBCの正規科目を学ぶとともに、「立命館・UBCハウス」をはじめとするキャンパス内の寮でUBC学生と共同の生活を行うプログラムです。

(2) 留学期間

8月末から翌年4月下旬までの約8ヵ月で、9～12月(ターム1)と1～4月(ターム2)の2タームに(学期)分かれています。本学の学年としては後期にあたりますが、UBCでは1学年の正規学期開講期間となります。また、8ヶ月のプログラムを終えた後、継続してUBCで学習するプログラムもあります。

(3) カリキュラム

このプログラムのために独自に開発したカリキュラムで、参加学生のアカデミックな英語力と学力の向上を目指します。また、一定の受講要件を満たせば、UBC正規開講科目を自らの関心・専門分野に応じて受講する道も開かれています。

■言語教育科目 「英語で学び考える力」を養うことが目的の科目で、ターム毎に2科目開講され、各科目とも講義・ラボ・チュートリアル各1コマから構成されている。

■カナダ研究 ターム1に開講するカナダに関する入門コース。文化、社会学・社会問題、法律と社会、経済の4分野から各自の関心に応じて選択。講義とチュートリアル各1コマから構成されている。

■コア科目 本学とUBCの教員各1名が共同担当する科目で、ターム2に下記の2科目を開講。
『異文化間コミュニケーション』『環太平洋研究』

*チュートリアル：ティーチングアシスタントが指導する討論中心のクラス

課外活動として、DIS(Directed Independent Study・教員の指導を受けながら行う自主学習)や、ボランティア活動も提供されます。

(4) 募集 日程・募集条件は変更となる場合があります。募集要項を参照して下さい。

i) 募集人数

100名(APU学生若干名を含む)

ii) 応募資格

- ・本学学部の在学学生
- ・原則として1回生(派遣時2回生)
ただし、上回生も応募可能
- ・TOEFL[®]/ITPスコア450点以上の者
- ・TOEFL[®]/CBTスコア133点以上の者

- iii) 応募日程 (予定)
 - 要項発表：10月中旬
 - 応募受付：11月上旬
 - 合格者発表：翌年1月中旬

② 交換留学

(1) 交換留学とは

交換留学とは、立命館大学と学生交換協定を締結している大学へ留学する制度です。

派遣先においては各自の専門分野に応じた正規開講科目（初修語圏は主に語学の授業）を受講します。従って、交換留学には高い語学力と学力、各自で物事に対処することのできる強い精神力と適応力が求められます。

(2) 学生交換協定校所在国（地域）

アメリカ、カナダ、オーストラリア、ニュージーランド、フランス、ドイツ、イギリス、スウェーデン、デンマーク、中国、香港、台湾、フィリピン、マレーシア、メキシコなど

※協定校は、年度によって変更がありますので、国際部で確認しましょう。

(3) 学籍上の取り扱いおよび卒業時期について

学籍上は「留学」となり、留学期間は在学期間に算入されますので、4年間の卒業が可能ですが、ただし、文学部の場合、卒業論文と4回生演習が4回生通年科目として必修科目として課されていますので、4回生後期前に帰国し、後期から本学に復学するようなスケジュールとなると、4回生終了時点で卒業はできなくなります。留学を計画するときは、学部事務室にその点をよく相談しましょう。

(4) 経費

協定により、本学に学費を納入すれば、派遣先大学へ学費を納入する必要はありません。しかし、渡航費、滞在費などは自己負担となります。

また、立命館大学では外国の大学で正規の授業科目の学習を行う本学学生に対し経済的援助として、奨学金を支給しています。また、民間団体等による奨学金があります。応募時期などありますので、希望される方は早めに国際課で相談しましょう。

(5) 応募資格など

交換留学は、希望者から選抜して派遣されます。派遣に際しては語学の基準などありますので、交換留学希望者は計画的な語学学習を心がけましょう。（その他に、学業成績、人物なども選考対象となります。）

基準は変更される可能性がありますので、募集要項で確認して下さい。

2. 海外大学院留学

卒業後、海外の大学院へ留学する目標を持っておられる方も多いと思います。国際公務員になるためには海外大学院への留学はほとんど必須と言って良いでしょう。海外への大学院留学は、国、その目的などによって、千差万別ですので一概に説明できません。ここでは、海外大学院留学のための一般的なスケジュールと、情報収集の方法を説明しましょう。

① スケジュール（大学院留学辞典より：アルク）

(1) 2年～1年半前

- ・スケジュールリング
- ・情報収集（留学関連書籍、留学関連機関、インターネットなど）
- ・出願に必要なテストを受験（TOEFL[®]、IELTS、GRE、GMAT、LSAT、MCAT・・・）

（事前準備チェックポイント）

- i) 留学後のキャリアプランを立てる
- ii) 留学期間の目処をつける
- iii) 資金調達の目処をつける
- iv) 自分の英語力を診断する
- v) 学びたい分野の学力を診断する

(2) 1年半～10ヶ月前

- ・願書、資料請求

- ・出願校選び
- (3) 10～6ヶ月前
 - ・書類作成、出願（入学願書、エッセー、履歴書、テストのスコア、推薦状・・・etc）
- (4) 直前
 - ・入学手続き
 - ・渡航準備

② 情報収集方法

- ・公的留学機関
 - 例) アメリカ：日米教育委員会
 - イギリス：ブリティッシュカウンシル
 - オーストラリア：オーストラリア政府教育情報センター
 - その他：日本教育協会 留学情報センター
- ・インターネット
 - 上記、公的留学機関のホームページの他、様々なサイトがあります。
- ・留学セミナー
 - 秋は、様々な留学セミナーが開催されます。
 - (例. <http://www.ryugaku.co.jp/>)
- ・外国語学校などの留学カウンセラー

3. 国際公務員になるためには？

皆さんの中にも、国際公務員を志望されている方がいらっしゃると思います。国際公務員になるためには、様々な方法があります。ここでは基本的な方法を紹介します。

(次のホームページより抜粋：外務省国際機関人事センター、Club JPO)

① 国連職員とは

国連職員は、国連やその下部組織、専門機関などに勤務し、ニューヨークやジュネーブなどの本部の他、世界中の開発途上国で活躍しており、専門職と一般職に分けられます。

専門職は、専門的知識や技術を活かして、業務に当たる職員で、P級職員（プロフェッショナル・レベル）といえます。また、管理職に当たるD級（ディレクター・レベル）と国際機関の事務局長などの職員も含まれます。公募は、空席公募で国際的に行われ、そのポストに合った即戦力となる者が採用されます。職務内容としては、各機関で実施するプログラム（開発、経済、環境など）に直接携わる業務と、それをサポートする官房業務（財務、人事、総務、広報など）に分類されます。

一般職は、各国際機関の本部やフィールド事務所において、専門職の下で一般事務を担当している職員で、GS（ジェネラル・スタッフ）といえます。原則として、各国際機関所在地の現地採用になりますので、個別の機関に直接問い合わせ・応募することとなります。

(国連PKOミッションについて)

国連が世界各地に展開する国連平和維持活動（PKO）ミッションにも多くの公募ポスト（短期任用）があります。

② 国際公務員になるための主な方法

(1) 空席公告への応募

国際機関に採用されるためには、空席公告へ応募することが基本になっています。空席公告は、ポストに空席が生じ、その空席を埋める必要がある場合に発表されます。

(2) アソシエイトエキスパート（JPO）

外務省では給与等の経費を負担して将来正規の国際公務員を志望する若手邦人を一定期間国際機関に派遣し、国際機関勤務を通して専門知識を深め、国際的経験を積んでもらう制度－アソシエイト・エキスパート（JPO、APOともいう）－を設けています。→⑤参照

(3) 国連職員採用競争試験

国連事務局が実施。若手国連職員を採用するため、大学卒業以上の方を対象とした試験を実施している。

この試験に合格し、正式に採用された場合には、国連事務局に正規職員として勤務することになります。

(4) その他

ヤングプロフェッショナルプログラム（世銀、ILO、UNESCO等）、UNDP LEADプログラム、ロスター登録プログラム（WFP、FAO、外務省）、採用ミッション等様々な採用方法があります。詳しくは各機関の採用情報ページか外務省国際機関空席情報ページを参照してください。

③ 国際機関職員になるために求められる基本

- ・語学力 英語もしくは仏語で職務遂行が可能であること
- ・学位 修士号以上の学位があること
- ・専門性 学位取得分野での勤務経験など

④ 国連職員採用競争試験応募要綱（2008年度）抜粋 参考

1. 概要

国連事務局は、外務省と協力して、若手国連職員を採用するため、大学卒業以上の方を対象とした公開競争による職員採用試験を実施しています。この試験に合格し、正式に採用となった場合には、ニューヨーク、バンコク、ジュネーブ、ナイロビ、ウィーン等の国連事務局で正規職員として勤務することになります。待遇：P1/P2レベル

2008年度締切り：2008年10月31日（金） 国連事務局（ニューヨーク）必着

2. 試験分野（2009年募集）

財務 Finance、情報技術 Information Technology、安全 Security、社会 Social Affairs、統計 Statistics、行政 Administration、経済 Economics、広報 Public information

※詳細については、外務省国際機関人事センターウェブサイトをご覧ください。http://www.mofa-irc.go.jp/

3. 受験資格

年齢等：日本国籍を有し、32歳以下（2009年12月31日現在）（1977年1月1日以降に生まれた方）

経歴等：上記試験実施分野において学士号以上の学位を有すること（修士号以上、受験分野での職歴・著作物があればより望ましい。）

語学：英語またはフランス語で職務遂行が可能であること（他の国連公用語の知識があればより望ましい。）

⑤ アソシエート・エキスパート（AE）等派遣制度の概要、2008年度募集要綱抜粋

(1) 制度の概要

外務省では、将来正規の国際公務員を志望する若手邦人のために、一定期間（原則2年）各国際機関で職員として勤務することにより、専門知識を深め、国際的業務の経験を積む機会を提供するアソシエート・エキスパート（AE）等派遣制度を設けており、毎年選考試験に合格した者を国連システム内の国際機関等に派遣しています。

アソシエート・エキスパート等の給与・手当等は、すべて日本政府（外務省）の拠出により賄われており、全ての派遣者の給与の格付けはP2レベル、ステップ1（初年時）に格付けされます（2年目はP2レベル、ステップ2）。また、手当等は国連職員の規則に基づいて支払われます。

この制度により派遣される者は、機関によりAE（Associate Expert）、JPO（Junior Professional Officer）又はAPO（Associate Professional officer）と称されています（通常これをAE等と総称）。

(2) アソシエート・エキスパート等の将来性

アソシエート・エキスパート（AE）等派遣制度は、将来正規の国際公務員となることを志望する若手邦人に、国際機関で経験を積む機会を提供することを主眼としていますが、任期終了後に、自動的に国際機関の正規職員になることができるわけではありません。

したがって、勤務終了後に正規職員となるためには、通常の手続きに従って空席ポストに応募して採用される必要があります。

アソシエート・エキスパート等として国際機関に勤務した上で、引き続いて正規職員として派遣先機関に採用される、あるいはその後一定の期間を経て派遣先機関あるいは他の国際機関に採用されます。

4. 外務省専門職員を目指すには？

外務省専門職員とは、将来、外務省および在外公館で外交領事業務もしくはそれに関連する事務をこなす中堅職員のことです。

外務省では、約40の外国語の語学専門家を養成しており、また、多様化した国際情勢に応えるため、多くの地域別・分野別の専門家の養成に力を入れています。

採用後は、現行制度下では入省後1カ月間外務省研修所（神奈川県相模原市）において国内研修を受け、引き続き外務省本省に勤務したのち、再び研修所における研修を経て、原則として研修語を履修するのに適した国にある在外公館に外交官補として配属になります。その場合、館務に従事することなくその国の大学等で研修語について約2年間（アラビア語は約3年間）の在外研修を受け、研修終了後は、そのまま館務に就くか、あるいは研修語を国語（又は適用語）とする別の国にある在外公館に転勤になるか、又は本省に戻って勤務することになります。

以後、おおむね5～6年ごとに本省勤務と在外公館勤務を繰返し、専門とする語学のみならず、当該語学と関連する国・地域の社会、文化、歴史等にも通じた専門家、あるいは経済、経済協力、条約等の分野の専門家として活躍することが期待されています。この間能力及び勤務成績に応じて昇進し、優秀な者については幹部への道も開かれています。平成21年度の試験は以下のとおりになっております。

公 告 日 4月1日

申込受付期間 4月6日～4月22日

第1次試験日 6月20日、21日

第2次試験日 7月30日～8月7日

第1次試験

- ・一般教養（多肢選択式で、一定の合格点に達しない者は、他の科目の成績いかんにかかわらず不合格とする）
- ・専門教科（記述式）

「憲法」「国際法」「経済学」「外国語（和訳と外国語訳）」の4科目。外国語は英語、フランス語、ドイツ語、ロシア語、スペイン語、ポルトガル語、イタリア語、オランダ語、アラビア語、中国語、朝鮮語、タイ語、ミャンマー語、ペルシャ語、ウルドゥ語、ヒンディー語、ベトナム語、インドネシア語のうちから一カ国語を選択します。

- ・時事論文

第2次試験

外国語会話（第1次試験で受験した外国語によって行う）、個別面接・集団討論、胸部レントゲン撮影等を含む一般的な身体検査

最終合格者発表 8月28日

受験資格は20歳以上29歳未満の者。または20歳未満の者で翌年の3月までに短大か高専卒業見込みの者となっています。採用後のキャリアしだいでは幹部への昇格の可能性もあります。

10 参考文献

◆エリアスタディ分野

加藤普章編『新版 エリア・スタディ入門－地域研究の学び方』（昭和堂、2000年）

上智大学アジア文化研究所編『入門 東南アジア研究』（めこん、1992年）

◆A分野（表現文化系）

小島晋治他編『中国百科』（大修館書店、1997年）

中国の歴史や文学についての概説書は多いが、中国の文化全般にわたって網羅的に書かれている書籍というのは大変少ない。その中でこの『中国百科』はあらゆるジャンルについてふれている珍しい書籍である。そのため一つ一つの記事の分量は非常に少なく、あることを調べようという目的にはあまり向かない。これを読んで興味をもった中国文化のジャンルがあれば、その方面の書籍を探して読むとよいだろう。

小野忍・中野美代子訳『西遊記』（岩波書店〈岩波文庫〉、1993年）

小川環樹・金田純一郎訳『完訳三国志』（岩波書店〈岩波文庫〉、1988年）

入門の授業では西遊記や三国志について話をするので、これらについて全く何も知らないという人がいると少し困る。西遊記や三国志に関する本なら何でもよいからある程度の内容を知っていてもraitたい。少年少女向けの読み物とか、横山光輝の漫画とかでも全くかまわない。上記の書籍は数ある関連図書の代表として挙げたが、小説の翻訳本であり分量も多いので、全く知識を持っていない人には実は向かない。

『中国映画の全貌100 1098－1995』（大映・東光徳間、1995年）

中国映画に関する書籍も増えてきたが、とりあえず数多くの映画の概要を知るために上記の書籍を薦めたい。中国演劇に関しても簡単に読める本があればよいのだが、今のところかなり専門的な書籍が多いので、授業の中で紹介することとする。

（その他）

貝塚茂樹『中国の歴史』（岩波新書）

井波律子編『中国史重要人物101』（新書館）

平野 純編『上海コレクション』

◆B分野（文書史料系）

近藤孝弘『国際歴史教科書対話：ヨーロッパにおける「過去」の再編』（中央公論社〈中公新書〉、1998年）

ヨーロッパで行われている歴史教科書を通じた国民国家間の対話を紹介したこの著作を通じて、国民史的な歴史および歴史教育の意味を考える。

イアン・ブルマ著、石井信平訳『戦争の記憶；日本人とドイツ人』（TBSブリタニカ、1994年）

日本とドイツの戦争犯罪に関する戦後処理問題を扱ったこの著作を通して、過去を記憶することの意味、国際化された社会の中で歴史を理解することの意味を考える。

高橋哲哉『戦後責任論』（講談社、1999年）

近年、特に戦後50年周年を境に、戦争責任問題で活発な議論が展開されているが、この著作を通してこの問題の意味を探る。

（その他）

溪内 謙『現代史を学ぶ』（岩波新書）

◆C分野（フィールドリサーチ系）

市川健夫『フィールドワーク入門―地域調査のすすめ―』（古今書院、1985年）

「景観を観察するだけで、様々な地域の実像を認識できる手法を体得できる」地理学のおもしろさを平易に解説して読みやすい。

鶴見良行『東南アジアを知る―私の方法』（岩波新書、1995年）

藤巻正己ほか編『異文化を「知る」ための方法（第2版）』（古今書院、1998年）

佐藤郁哉『フィールドワーク』（新曜社、1992年）

佐藤郁哉『フィールドワークの技法』（新曜社、2002年）

エマーソンほか『方法としてのフィールドノート』（新曜社、1998年）

佐藤誠編『地域研究調査法を学ぶ人のために』（世界思想社、1996年）

◆D分野（行動科学系）

町田健『言語学が好きになる本』（研究社、1999年）

言語学に楽しく入っていけるように、日常のことばに関する素朴な疑問に答えながら解説した本。

町田健『生成文法がわかる本』（研究社、2000年）

日本語や英語といった違いを超えた、人間の言語一般にあてはまる文法は何か。このような一見難しい問題を、肩のこらない調子で解説した本。理論好きな人向きだが、高校までの英語の知識があれば理解できる。

初山洋介『認知意味論のしくみ』（研究社、2002年）

ことばがどういうときにどういう意味で使われるかに興味のある人向き。

町田健『日本語のしくみがわかる本』（研究社2000年）

高校まで教わってきた、国語の時間の文法がおもしろくなかった人でも興味が湧くように書かれている。日本語を母語とする私たちが、いかに文法を無意識に使ってしゃべっているかが実感できる。

中島平三『発見の興奮―言語学との出会い―』（大修館書店、1995年）

学生時代に自分のやりたいことを模索していた著者が、どのようにして言語学に出会い、学問に対する楽しさや知的興奮を体験していったかを述べた本。学者がどうして学問などに夢中になるのか、ことばの問題を通して教えてくれる。

◆E分野（メタ思考系）

岡崎・日下部他著『西洋哲学史―理性の運命と可能性―』（昭和堂、1994年）

E分野の授業では、2600年の哲学思想の流れをふまえた上で、現代の国際世界の底流をなす思想状況がどのようなものであるかを教示したいと考えている。本書はギリシアから現代のポスト・モダンまでの哲学を俯瞰している。現代の国際世界を根底において規定している哲学を歴史をふまえて理解する上で、本書は最良の導きとなろう。

（その他）

丸山真男『日本の思想』（岩波新書）

岡本太郎『今日の芸術』（光文社文庫）

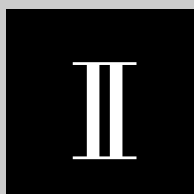
◆その他

英語論文の書式・書き方を解説した本を紹介します。留学等考えている方は是非チャレンジしてください。

J. ジバルディ他編著、原田敬一訳編『MLA英語論文の手引き』（北星堂）

トラウビアン著、高橋作太郎訳『英語論文の書き方』（研究社）

- アンドルー・アーマー他著『アカデミックライティング応用編』（慶応義塾大学出版会）
ジョン・スウェイルズ／クリスティン・フィーク著 御手洗靖（訳）『効果的な英語論文を書く』（大修館書店）
樋口昌幸『英語論文表現事典』（北星堂）
崎村耕二『英語論文でよく使う表現』（創元社）
迫村純男（訳）『英語論文に使う表現文例集』（ナツメ社）
加藤恭子、ヴェネッサ・ハーディ『英語小論文の書き方』（講談社現代新書）



科目一覧及び履修方法

① 科目一覧 人文総合科学インスティテュート 国際プログラム

国際プログラム2010年度以降入学生

| 区分 | 国際プログラム専門科目 | 国際インスティテュート科目 | | |
|-------------|---|---|--|--|
| | | 専門外国語 | 専門科目 | |
| | | | 国際社会プログラム | プログラム共通 |
| 1 回 生 | *国際プログラム研究入門(4) | | | ※国際社会入門 ※海外スタディ |
| 2 回 生 | *国際プログラム基礎講読Ⅰ・Ⅱ(各2) 履修推奨副専攻(2~3回生) ・イノベーション副専攻 英語アドヴァンスト・コース デジタル人文学コース 日本語教育コース ツーリズム・コース ・エリアスタディ副専攻 韓国コース 現代中国コース 東南アジア・コース 北米コース イタリア・コース | ※政治分野英語(2) ※経済分野英語(2) ※法律分野英語(2) ※社会分野英語(2) ※国際社会プログラム英語(4) ※英語プロジェクト研究(IS)Ⅰ(2) ※専門中国語Ⅰ~Ⅳ(各2) ※専門フランス語Ⅰ~Ⅳ(各2) ※専門ドイツ語Ⅰ~Ⅳ(各2) ※専門スペイン語Ⅰ~Ⅳ(各2) | ※国際社会フォーラムⅠ(2) ※国際文化論(2) ※国際協力論特論(2) ※宗教と国際社会(2) ※フィールドリサーチ論(2) ※NGOボランティア組織論(2) ※グローバリゼーションと日本(2) ※国際人権法(2) ※グローバルメディア論(2) ※エスニシティとネーション(2) ※社会開発論(2) ※環境経済論(2) ※国際環境政策(2) 移動と文化変容(2) 第三世界とジェンダー論(2) ※第三世界政治論(2) ※国際開発援助論(2) ※国際産業開発論(2) ※民族誌の諸問題(2) ※他者認識の歴史(2) ※国際社会論(2) ※国際福祉社会論(2) ※アジアの福祉研究(2) ※国際福祉政策論(2) ※国際保健医療政策研究(2) ※国際家族研究(2) ※国際社会政策論(2) ※国際教育援助論(2) ※多文化共生論(2) ※グローバル・ガバナンス(2) ※国際公務の現場と実践(2) | ※特殊講義(2) ※国内インターンシップ(国際インスティテュート専門) ※海外インターンシップ(国際インスティテュート専門) 以下はJWP科目です。 ※(JWP) Environmental Economics(2) ※(JWP) International Relations(2) ※(JWP) Comparative Historiography(2) ※(JWP) International Cooperation(2) ※(JWP) International Peace Studies(2) ※(JWP) Welfare and Gender(2) ※(JWP) International Organizations(2) ※(JWP) International Development and Aid(2) ※(JWP) Contemporary International Politics(2) ※(JWP) International Public Policy(2) ※(JWP) The United Nations(2) ※(JWP) International Law(2) ※(JWP) Welfare in Asia(2) ※(JWP) International Management(2) ※(JWP) International Sociology(2) ※(JWP) International Political Theories(2) ※(JWP) North-South Relations(2) ※(JWP) Japan-United States Relations(2) ※(JWP) US Politics and Law(2) ※(JWP) Japanese Politics(2) ※(JWP) Foreign Relations of Japan(2) ※(JWP) Japanese Economy(2) ※(JWP) Japanese Society(2) ※(JWP) Japanese Culture(2) ※#(JWP) Area Studies 1(2) ※#(JWP) Area Studies 2(2) ※(JWP) Asia-Pacific Relations(2) ※#(JWP) Special Studies(2) ※(JWP) Service Learning I・II ※(JWP) Political Economy of East Asia(2) |
| 3 回 生 | 国際プログラム演習Ⅰ(4) #ゼミナールⅠ(テーマリサーチ)(4) | ※国際社会プログラム上級英語(4) ※英語プレゼンテーションと討議(2) ※英語プロジェクト研究(IS)Ⅱ(2) ※専門中国語Ⅴ~Ⅷ(各2) ※専門フランス語Ⅴ~Ⅷ(各2) ※専門ドイツ語Ⅴ~Ⅷ(各2) ※専門スペイン語Ⅴ~Ⅷ(各2) ※国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ(各2) | | |
| 4 回 生 | 国際プログラム演習Ⅱ(4) #ゼミナールⅡ(テーマリサーチ)(4) *卒業論文(4) | | | |
| 備考 | 国際プログラム専門科目は国際インスティテュート科目(30単位以上必修)に算入されません。 | 国際インスティテュート専門科目:合計30単位 専門外国語科目:12単位以上 専門科目:14単位以上 | | |

1. 科目名のカッコ数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、国際プログラムの学生のみが受講できます。
3. ※のついた科目は、国際インスティテュートの学生のみが受講できます。
4. #のついた科目は重複受講できます。
5. 下線のついた科目はその回生でしか受講できません。
6. 「海外スタディ」「国内/海外インターンシップ」の単位数は、プログラムにより異なります。
7. 「英語プレゼンテーションと討議」は、専門英語の早期履修者は2回生で履修をします。
8. 「民族誌の諸問題」「他者認識の歴史」は学際プログラムでも同じ科目名で開講しています。国際プログラムの学生は国際プログラムで開講されるクラスを受講してください。

「国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ」は国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した学生のみが受講できます。

国際プログラム2009年度入学生

| 区分 | 国際プログラム専門科目 | 国際インスティテュート科目 | | |
|-------------|---|---|--|--|
| | | 専門外国語 | 専門科目 | |
| | | | 国際社会プログラム | プログラム共通 |
| 1 回 生 | *国際プログラム研究入門(4) | | | ※国際社会入門 ※海外スタディ |
| 2 回 生 | *国際プログラム基礎講読Ⅰ・Ⅱ(各2) #人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ(各2) 履修推奨副専攻(2~3回生) ・イノベーション副専攻 英語アドヴァンスト・コース 学校教育臨床研修コース デジタル人文学コース 日本語教育コース ツーリズム・コース ・エアスタディ副専攻 韓国コース 現代中国コース 東南アジア・コース 北米コース イタリア・コース | ※政治分野英語(2) ※経済分野英語(2) ※法律分野英語(2) ※社会分野英語(2) ※国際社会プログラム英語(4) ※英語プロジェクト研究(IS)Ⅰ(2) ※専門中国語Ⅰ~Ⅳ(各2) ※専門フランス語Ⅰ~Ⅳ(各2) ※専門ドイツ語Ⅰ~Ⅳ(各2) ※専門スペイン語Ⅰ~Ⅳ(各2) | ※国際社会フォーラムⅠ(2) ※国際文化論(2) ※国際協力論特論(2) ※宗教と国際社会(2) ※フィールドリサーチ論(2) ※NGOボランティア組織論(2) ※グローバリゼーションと日本(2) ※国際人権法(2) ※グローバルメディア論(2) ※エスニシティとネーション(2) ※社会開発論(2) ※環境経済論(2) ※国際環境政策(2) 移動と文化変容(2) 第三世界とジェンダー論(2) ※第三世界政治論(2) ※国際開発援助論(2) ※国際産業開発論(2) ※民族誌の諸問題(2) ※他者認識の歴史(2) ※国際社会論(2) ※国際福祉社会論(2) ※アジアの福祉研究(2) ※国際福祉政策論(2) ※国際保健医療政策研究(2) ※国際家族研究(2) ※国際社会政策論(2) ※国際教育援助論(2) ※多文化共生論(2) ※グローバル・ガバナンス(2) ※国際公務の現場と実践(2) | ※特殊講義(2) ※国内インターンシップ(国際インスティテュート専門) ※海外インターンシップ(国際インスティテュート専門) 以下はJWP科目です。 ※(JWP) Environmental Economics(2) ※(JWP) International Relations(2) ※(JWP) Comparative Historiography(2) ※(JWP) International Cooperation(2) ※(JWP) International Peace Studies(2) ※(JWP) Welfare and Gender(2) ※(JWP) International Organizations(2) ※(JWP) International Development and Aid(2) ※(JWP) Contemporary International Politics(2) ※(JWP) International Public Policy(2) ※(JWP) The United Nations(2) ※(JWP) International Law(2) ※(JWP) Welfare in Asia(2) ※(JWP) International Management(2) ※(JWP) International Sociology(2) ※(JWP) International Political Theories(2) ※(JWP) North-South Relations(2) ※(JWP) Japan-United States Relations(2) ※(JWP) US Politics and Law(2) ※(JWP) Japanese Politics(2) ※(JWP) Foreign Relations of Japan(2) ※(JWP) Japanese Economy(2) ※(JWP) Japanese Society(2) ※(JWP) Japanese Culture(2) ※#(JWP) Area Studies 1(2) ※#(JWP) Area Studies 2(2) ※(JWP) Asia-Pacific Relations(2) ※#(JWP) Special Studies(2) ※(JWP) Service Learning I・II ※(JWP) Political Economy of East Asia(2) |
| 3 回 生 | 国際プログラム演習Ⅰ(4) #ゼミナールⅠ(テーマリサーチ)(4) #人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ(各2) | ※国際社会プログラム上級英語(4) ※英語プレゼンテーションと討議(2) ※英語プロジェクト研究(IS)Ⅱ(2) ※専門中国語Ⅴ~Ⅷ(各2) ※専門フランス語Ⅴ~Ⅷ(各2) ※専門ドイツ語Ⅴ~Ⅷ(各2) ※専門スペイン語Ⅴ~Ⅷ(各2) ※国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ(各2) | | |
| 4 回 生 | 国際プログラム演習Ⅱ(4) #ゼミナールⅡ(テーマリサーチ)(4) *卒業論文(4) | | | |
| 備 考 | 国際プログラム専門科目は国際インスティテュート科目(30単位以上必修)に算入されません。 | 国際インスティテュート専門科目:合計30単位 専門外国語科目:12単位以上 専門科目:14単位以上 | | |

1. 科目名のカッコ数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、国際プログラムの学生のみが受講できます。
3. ※のついた科目は、国際インスティテュートの学生のみが受講できます。
4. #のついた科目は重複受講できます。
5. 下線のついた科目はその回生でしか受講できません。
6. 「海外スタディ」「国内/海外インターンシップ」の単位数は、プログラムにより異なります。
7. 「英語プレゼンテーションと討議」は、専門英語の早期履修者は2回生で履修します。
8. 「民族誌の諸問題」「他者認識の歴史」は学際プログラムでも同じ科目名で開講しています。国際プログラムの学生は国際プログラムで開講されるクラスを受講してください。

「国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ」は国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した学生のみが受講できます。

国際プログラム2008年度入学生

| 区分 | 国際プログラム専門科目 | 国際インスティテュート科目 | | |
|-------------|---|--|---|--|
| | | 専門外国語 | 専門科目 | |
| | | | 国際社会プログラム | プログラム共通 |
| 1 回 生 | * <u>人文総合科学研究入門</u> (4) | | | ※国際社会入門 ※海外スタディ |
| 2 回 生 | * <u>人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ</u> (各2) # 人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ (各2) 履修推奨副専攻 (2~3回生) ・イノベーション副専攻 英語アドヴァンスト・コース 学校教育臨床研修コース 人文系デジタルグラフィック・コース 日本語教育コース ツーリズム・コース ・エリアスタディ副専攻 京都歴史回廊コース 韓国コース 現代中国コース 東南アジア・コース 北米コース イタリア・コース | ※政治分野英語 (2) ※経済分野英語 (2) ※法律分野英語 (2) ※社会分野英語 (2) ※国際社会プログラム英語 (4) ※英語プロジェクト研究 (IS)Ⅰ (2) ※専門中国語Ⅰ~Ⅷ (各2) ※専門フランス語Ⅰ~Ⅲ (各2) ※専門ドイツ語Ⅰ~Ⅲ (各2) ※専門スペイン語Ⅰ~Ⅲ (各2) | ※国際社会フォーラムⅠ (2) ※国際文化論 (2) ※国際協力論特論 (2) 宗教と国際社会 (2) フィールドリサーチ論 (2) ※NGOボランティア組織論 (2) ※グローバリゼーションと日本 (2) ※国際人権法 (2) ※グローバルメディア論 (2) ※エスニシティとネーション (2) ※社会開発論 (2) ※環境経済論 (2) ※国際環境政策 (2) 移動と文化変容 (2) 第三世界とジェンダー論 (2) ※第三世界政治論 (2) ※国際開発援助論 (2) ※国際産業開発論 (2) ※民族誌の諸問題 (2) ※他者認識の歴史 (2) ※国際社会論 (2) ※国際福祉社会論 (2) ※アジアの福祉研究 (2) ※国際福祉政策論 (2) ※国際保健医療政策研究 (2) ※国際家族研究 (2) ※国際社会政策論 (2) ※国際教育援助論 (2) ※多文化共生論 (2) ※グローバル・ガバナンス (2) ※国際公務の現場と実践 (2) | ※特殊講義 (2) ※国内インターンシップ (国際インスティテュート専門) ※海外インターンシップ (国際インスティテュート専門) 以下は JWP 科目です。 ※ (JWP) Environmental Economics (2) ※ (JWP) International Relations (2) ※ (JWP) Comparative Historiography (2) ※ (JWP) International Cooperation (2) ※ (JWP) International Peace Studies (2) ※ (JWP) Welfare and Gender (2) ※ (JWP) International Organizations (2) ※ (JWP) International Development and Aid (2) ※ (JWP) Contemporary International Politics (2) ※ (JWP) International Public Policy (2) ※ (JWP) The United Nations (2) ※ (JWP) International Law (2) ※ (JWP) Welfare in Asia (2) ※ (JWP) International Management (2) ※ (JWP) International Sociology (2) ※ (JWP) International Political Theories (2) ※ (JWP) North-South Relations (2) ※ (JWP) Japan-United States Relations (2) ※ (JWP) US Politics and Law (2) ※ (JWP) Japanese Politics (2) ※ (JWP) Foreign Relations of Japan (2) ※ (JWP) Japanese Economy (2) ※ (JWP) Japanese Society (2) ※ (JWP) Japanese Culture (2) ※# (JWP) Area Studies 1 (2) ※# (JWP) Area Studies 2 (2) ※ (JWP) Asia-Pacific Relations (2) ※# (JWP) Special Studies (2) ※ (JWP) Service Learning I・II ※ (JWP) Political Economy of East Asia (2) |
| 3 回 生 | # <u>ゼミナールⅠ</u> (テーマリサーチ) (4) # <u>人文総合科学演習Ⅰ</u> (4) # 人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ (各2) | ※国際社会プログラム上級英語 (4) ※英語プレゼンテーションと討議 (2) ※英語プロジェクト研究 (IS)Ⅱ (2) ※専門中国語Ⅳ~Ⅷ (各2) ※専門フランス語Ⅳ~Ⅷ (各2) ※専門ドイツ語Ⅳ~Ⅷ (各2) ※専門スペイン語Ⅳ~Ⅷ (各2) ※国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ (各2) | | |
| 4 回 生 | # <u>ゼミナールⅡ</u> (テーマリサーチ) (4) # 人文総合科学演習Ⅱ (4) * <u>卒業論文</u> (4) | | | |
| 備 考 | 国際プログラム専門科目は国際インスティテュート科目 (30単位以上必修) に算入されません。 | 国際インスティテュート専門科目：合計30単位 専門外国語科目：12単位以上 専門科目：14単位以上 | | |

1. 科目名のカッコ数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、国際プログラムの学生のみが受講できます。
3. ※のついた科目は、国際インスティテュートの学生のみが受講できます。
4. #のついた科目は重複受講できます。
5. 下線のついた科目はその回生でしか受講できません。
6. 「海外スタディ」「国内/海外インターンシップ」の単位数は、プログラムにより異なります。
7. 「英語プレゼンテーションと討議」は、専門英語の早期履修者は2回生で履修をします。
8. 「民族誌の諸問題」「他者認識の歴史」は学際プログラムでも同じ科目名で開講しています。国際プログラムの学生は国際プログラムで開講されるクラスを受講してください。

「国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ」は国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した学生のみが受講できます。

国際プログラム2007年度入学生

| 区分 | 国際プログラム専門科目 | 国際インスティテュート科目 | | |
|-------------|---|--|---|--|
| | | 専門外国語 | 専門科目 | |
| | | | 国際社会プログラム | プログラム共通 |
| 1 回 生 | * <u>人文総合科学研究入門</u> (4) | | 【※国際社会フォーラム入門(2)】 | ※国際社会入門 ※海外スタディ |
| 2 回 生 | * <u>人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ</u> (各2) # <u>人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ</u> (各2) | ※政治分野英語(2) ※経済分野英語(2) ※法律分野英語(2) ※社会分野英語(2) ※国際社会プログラム英語(4) ※英語プロジェクト研究 (IS)Ⅰ(2) ※専門中国語Ⅰ～Ⅲ(各2) ※専門フランス語Ⅰ～Ⅲ(各2) ※専門ドイツ語Ⅰ～Ⅲ(各2) ※専門スペイン語Ⅰ～Ⅲ(各2) | ※ <u>国際社会フォーラムⅠ</u> (2) ※国際文化論(2) ※国際協力論特論(2) ※宗教と国際社会(2) ※フィールドリサーチ論(2) ※NGOボランティア組織論(2) ※グローバリゼーションと日本(2) ※国際人権法(2) ※グローバルメディア論(2) ※エスニシティとネーション(2) ※社会開発論(2) ※環境経済論(2) ※国際環境政策(2) ※移動と文化変容(2) ※第三世界とジェンダー論(2) ※第三世界政治論(2) ※国際開発援助論(2) ※国際産業開発論(2) ※民族誌の諸問題(2) ※他者認識の歴史(2) ※国際社会論(2) ※国際福祉社会論(2) ※アジアの福祉研究(2) ※国際福祉政策論(2) ※国際保健医療政策研究(2) ※国際家族研究(2) ※国際社会政策論(2) ※国際教育援助論(2) ※多文化共生論(2) ※グローバル・ガバナンス(2) ※国際公務の現場と実践(2) | ※特殊講義(2) ※国内インターンシップ(国際インスティテュート専門) ※海外インターンシップ(国際インスティテュート専門) 以下はJWP科目です。 ※(JWP) Environmental Economics(2) ※(JWP) International Relations(2) ※(JWP) Comparative Historiography(2) ※(JWP) International Cooperation(2) ※(JWP) International Peace Studies(2) ※(JWP) Welfare and Gender(2) ※(JWP) International Organizations(2) ※(JWP) International Development and Aid(2) ※(JWP) Contemporary International Politics(2) ※(JWP) International Public Policy(2) ※(JWP) The United Nations(2) ※(JWP) International Law(2) ※(JWP) Welfare in Asia(2) ※(JWP) International Management(2) ※(JWP) International Sociology(2) ※(JWP) International Political Theories(2) ※(JWP) North-South Relations(2) ※(JWP) Japan-United States Relations(2) ※(JWP) US Politics and Law(2) ※(JWP) Japanese Politics(2) ※(JWP) Foreign Relations of Japan(2) ※(JWP) Japanese Economy(2) ※(JWP) Japanese Society(2) ※(JWP) Japanese Culture(2) ※#(JWP) Area Studies 1(2) ※#(JWP) Area Studies 2(2) ※(JWP) Asia-Pacific Relations(2) ※#(JWP) Special Studies(2) ※(JWP) Service LearningⅠ・Ⅱ ※(JWP) Political Economy of East Asia(2) |
| 3 回 生 | # <u>ゼミナールⅠ</u> (テーマリサーチ)(4) # <u>人文総合科学演習Ⅰ</u> (4) # <u>人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ</u> (各2) | ※国際社会プログラム上級英語(4) ※英語プレゼンテーションと討議(2) ※英語プロジェクト研究 (IS)Ⅱ(2) ※専門中国語Ⅳ～Ⅶ(各2) ※専門フランス語Ⅳ～Ⅶ(各2) ※専門ドイツ語Ⅳ～Ⅶ(各2) ※専門スペイン語Ⅳ～Ⅶ(各2) ※国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ(各2) | | |
| 4 回 生 | # <u>ゼミナールⅡ</u> (テーマリサーチ)(4) # <u>人文総合科学演習Ⅱ</u> (4) * <u>卒業論文</u> (4) | | | |
| 備考 | 国際プログラム専門科目は国際インスティテュート科目(30単位以上必修)に算入されません。 | 国際インスティテュート専門科目:合計30単位 専門外国語科目:12単位以上 専門科目:14単位以上 | | |

1. 科目名のカッコ数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、人文総合科学インスティテュートの学生のみが受講できます。
3. ※のついた科目は、国際インスティテュートの学生のみが受講できます。
4. #のついた科目は重複受講できます。
5. 下線のついた科目はその回生でしか受講できません。
6. 「海外スタディ」「国内/海外インターンシップ」の単位数は、プログラムにより異なります。
7. JWP科目は2005年度より順次開講していきます。
8. 「英語プレゼンテーションと討議」は、JWP生は2回生で履修をします。
9. 「民族誌の諸問題」「他者認識の歴史」は学際プログラムでも同じ科目名で開講しています。国際プログラムの学生は国際プログラムで開講されるクラスを受講してください。
10. 【 】のついた科目は開講していません。

「国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ」は国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した学生のみが受講できます。

国際プログラム2006年度入学生

| 区分 | 国際プログラム専門科目 | 国際インスティテュート科目 | |
|-------------|--|---|--|
| | | 専門外国語 | 専門科目 |
| | | | 国際社会プログラム |
| 1 回 生 | *人文総合科学研究入門(4) | | 【※国際社会フォーラム入門(2)】 ※国際法務入門(2) ※多文化社会入門(2) ※国際協力入門(2) ※国際マス・メディア入門(2) ※国際公共政策入門(2) ※国際福祉入門(2) ※海外スタディ |
| 2 回 生 | *人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ(各2) #人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ(各2) 【*人文総合科学概説Ⅰ・Ⅱ(各2)】 | ※政治分野英語(2) ※経済分野英語(2) ※法律分野英語(2) ※社会分野英語(2) ※国際社会プログラム英語(4) ※英語プロジェクト研究(IS)Ⅰ(2) ※専門中国語Ⅰ～Ⅲ(各2) ※専門フランス語Ⅰ～Ⅲ(各2) ※専門ドイツ語Ⅰ～Ⅲ(各2) ※専門スペイン語Ⅰ～Ⅲ(各2) | ※国際社会フォーラムⅠ(2) ※国際文化論(2) ※国際協力論特論(2) 宗教と国際社会(2) フィールドリサーチ論(2) ※NGOボランティア組織論(2) ※グローバルゼーションと日本(2) ※国際人権法(2) ※グローバルメディア論(2) ※エスニシティとネーション(2) ※社会開発論(2) ※環境経済論(2) ※国際環境政策(2) 移動と文化変容(2) 第三世界とジェンダー論(2) ※第三世界政治論(2) ※国際開発援助論(2) ※国際産業開発論(2) ※民族誌の諸問題(2) ※他者認識の歴史(2) ※国際社会論(2) ※国際福祉社会論(2) ※アジアの福祉研究(2) ※国際福祉政策論(2) ※国際保健医療政策研究(2) ※国際家族研究(2) ※国際社会政策論(2) ※国際教育援助論(2) ※多文化共生論(2) ※グローバル・ガバナンス(2) ※国際公務の現場と実践(2) 【※国際平和論】 |
| 3 回 生 | #ゼミナールⅠ(テーマリサーチ)(4) #人文総合科学外書講読Ⅲ・Ⅳ(各2) | ※国際社会プログラム上級英語(4) ※英語プレゼンテーションと討議(2) ※英語プロジェクト研究(IS)Ⅱ(2) ※専門中国語Ⅳ～Ⅶ(各2) ※専門フランス語Ⅳ～Ⅶ(各2) ※専門ドイツ語Ⅳ～Ⅶ(各2) ※専門スペイン語Ⅳ～Ⅶ(各2) ※国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ(各2) | 【※国際社会フォーラムⅡ(2)】 |
| 4 回 生 | #ゼミナールⅡ(テーマリサーチ)(4) *卒業論文(4) | | |
| 備考 | 国際プログラム専門科目は国際インスティテュート科目(30単位以上必修)に算入されません。 | 国際インスティテュート専門科目：合計30単位 専門外国語科目：12単位以上 専門科目：14単位以上 | |

1. 科目名のカッコ数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、人文総合科学インスティテュートの学生のみが受講できます。
3. ※のついた科目は、国際インスティテュートの学生のみが受講できます。
4. #のついた科目は重複受講できます。
5. 下線のついた科目はその回生でしか受講できません。
6. 「海外スタディ」「国内/海外インターンシップ」「スチューデントイニシアティブ実習」の単位数は、プログラムにより異なります。
7. JWP科目は2005年度より順次開講していきます。
8. 「英語プレゼンテーションと討議」は、JWP生は2回生で履修をします。
9. 「民族誌の諸問題」「他者認識の歴史」は学際プログラムでも同じ科目名で開講しています。国際プログラムの学生は国際プログラムで開講されるクラスを受講してください。
10. 「グローバル・ガバナンス」は「国際平和論」を履修済の場合は受講できません。
11. 【 】のついた科目は開講していません。

「国際言語文化論Ⅰ・Ⅱ」は国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した学生のみが受講できます。

| 区分 | 国際プログラム専門科目 | 国際インスティテュート科目 | |
|-------------|--|--|--|
| | | 専門外国語 | 専門科目 |
| | | | 国際社会プログラム |
| 1 回 生 | * <u>人文総合科学研究入門</u> (4) | | ※国際社会フォーラム入門(2) ※国際法務入門(2) ※多文化社会入門(2) ※国際協力入門(2) ※国際マス・メディア入門(2) ※国際公共政策入門(2) |
| 2 回 生 | * <u>人文総合科学基礎講読I・II</u> (各2) # <u>人文総合科学外書講読I・II</u> (各2) 【* <u>人文総合科学概説I・II</u> (各2)】 | ※国際社会プログラム英語(4) 【※英語プレゼンテーションと討議I(2)】 ※英語プロジェクト研究(IS)I(2) ※政治分野英語(2) ※経済分野英語(2) ※法律分野英語(2) ※専門中国語I～III(各2) ※専門フランス語I～III(各2) ※専門ドイツ語I～III(各2) ※専門スペイン語I～III(各2) | ※国際社会フォーラムI(2) ※国際文化論(2) ※国際協力論特論(2) ※宗教と国際社会(2) ※フィールドリサーチ論(2) ※NGOボランティア組織論(2) ※グローバリゼーションと日本(2) ※国際人権法(2) ※グローバルメディア論(2) ※エスニシティとネーション(2) ※社会開発論(2) ※環境経済論(2) ※国際環境政策(2) 【※国際福祉論(2)】 ※国際福祉社会論(2) ※アジアの福祉研究(2) ※国際福祉政策論(2) ※国際保健医療政策研究(2) ※国際家族研究(2) ※国際社会政策論(2) ※国際教育援助論(2) ※多文化共生論(2) ※国際公務の現場と実践(2) |
| 3 回 生 | # <u>ゼミナールI</u> (テーマリサーチ)(4) # <u>人文総合科学外書講読III・IV</u> (各2) | ※国際社会プログラム上級英語(4) 【※英語プレゼンテーションと討議II(2)】 ※英語プロジェクト研究(IS)II(2) ※専門中国語IV～VII(各2) ※専門フランス語IV～VII(各2) ※専門ドイツ語IV～VII(各2) ※専門スペイン語IV～VII(各2) ※国際言語文化論I・II(各2) | 【※国際社会フォーラムII(2)】 ※国際社会論(2) 移動と文化変容(2) 第三世界とジェンダー論(2) ※第三世界政治論(2) ※国際平和論(2) ※国際開発援助論(2) ※国際産業開発論(2) ※民族誌の諸問題(2) ※他者認識の歴史(2) |
| 4 回 生 | # <u>ゼミナールII</u> (テーマリサーチ)(4) * <u>卒業論文</u> (4) | | |
| 備 考 | 国際プログラム専門科目は国際インスティテュート科目(30単位以上必修)に算入されません。 | 国際インスティテュート専門科目：合計30単位 専門外国語科目：12単位以上 専門科目：14単位以上 | |

1. 科目名のカッコ数字は単位数を示します。
2. *のついた科目は、人文総合科学インスティテュートの学生のみが受講できます。
3. ※のついた科目は、国際インスティテュートの学生のみが受講できます。
4. #のついた科目は重複受講できます。
5. 下線のついた科目はその回生でしか受講できません。
6. 「海外スタディ」「国内/海外インターンシップ」「スチューデントイニシアティブ実習」の単位数は、プログラムにより異なります。
7. 「国際福祉社会論」「アジアの福祉研究」「国際福祉政策論」「国際保健医療政策研究」「国際家族研究」「国際社会政策論」「国際教育援助論」「多文化共生論」は2006年度からの開講です。
8. JWP科目は2005年度より順次開講しています。
9. 専門外国語科目の「政治・経済・法律・社会分野英語」は、JWP生は1回生で履修をします。
10. 「英語プレゼンテーションと討議」は、JWP生は2回生で履修をします。
11. プログラム共通1回生配当、入門科目(国際法務入門、多文化社会入門、国際協力入門、国際マス・メディア入門、国際公共政策入門、国際福祉入門)は6科目のうち1科目しか履修できません。
12. 「民族誌の諸問題」「他者認識の歴史」は学際プログラムでも同じ科目名で開講しています。国際プログラムの学生は国際プログラムで開講されるクラスを受講してください。(2006年より開講)

【 】のついた科目は開講していません。

「国際言語文化論I・II」は国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した学生のみが受講できます。

【国際プログラムの履修構造】

| | | | | |
|------------------|---------------|---|--------------------|---------------|
| 教養科目 (24単位以上) | 外国語 (14単位) | 専門科目 (70単位以上) | 自由選択(科目) (16単位) | 合計 124単位以上 |
| | | 文学部 専門科目 (40単位以上) | | |
| | | 国際インスティテュート 専門科目 (30単位) [専門科目14単位以上] [専門外国語12単位以上] | | |

2 履修方法

「教学の手引き」以外にも必ず「国際インスティテュート学修ガイドブック」も確認して下さい。

2010年度以降入学生

【必修科目・登録必修科目】

必修科目 卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

| | | |
|---|--|------------|
| ① | ゼミナールⅡ (テーマリサーチ) (4回生以上) 国際プログラム演習Ⅱ (4回生以上) | 1科目4単位選択必修 |
| ② | 卒業論文 (4回生以上) | 4単位必修 |

登録必修科目 (必ず登録・受講しなければならない科目)

| | | |
|---|--|---------------|
| ③ | リテラシー入門 (1回生のみ) | 1科目2単位 (教養科目) |
| ④ | 国際プログラム研究入門 (1回生のみ) | 1科目4単位 |
| ⑤ | 国際プログラム基礎講読Ⅰ・Ⅱ (2回生のみ) | 2科目4単位 |
| ⑥ | ゼミナールⅠ (テーマリサーチ) (3回生のみ) 国際プログラム演習Ⅰ (3回生のみ) | 1科目4単位選択 |
| ⑦ | 国際社会フォーラムⅠ (2回生) | 1科目2単位 |

*国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した場合、上記以外に登録必修科目がいくつかあります。詳細は『国際インスティテュート学修ガイドブック』を参照してください。

2009年度入学生

【必修科目・登録必修科目】

必修科目 卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

| | | |
|---|--|------------|
| ① | ゼミナールⅡ (テーマリサーチ) (4回生以上) 国際プログラム演習Ⅱ (4回生以上) | 1科目4単位選択必修 |
| ② | 卒業論文 (4回生以上) | 4単位必修 |

登録必修科目 (必ず登録・受講しなければならない科目)

| | | |
|---|--|---------------|
| ③ | リテラシー入門 (1回生のみ) | 1科目2単位 (教養科目) |
| ④ | 国際プログラム研究入門 (1回生のみ) | 1科目4単位 |
| ⑤ | 人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ (2回生以上) | 2科目4単位 |
| ⑥ | 国際プログラム基礎講読Ⅰ・Ⅱ (2回生のみ) | 2科目4単位 |
| ⑦ | 人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ (2回生のみ) | 2科目4単位 (教養科目) |
| ⑧ | ゼミナールⅠ (テーマリサーチ) (3回生のみ) 国際プログラム演習Ⅰ (3回生のみ) | 1科目4単位選択 |
| ⑨ | 国際社会フォーラムⅠ (2回生) | 1科目2単位 |

*国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した場合、上記以外に登録必修科目がいくつかあります。詳細は『国際インスティテュート学修ガイドブック』を参照してください。

2005年度～2008年度入学生

【必修科目・登録必修科目】

必修科目 卒業するために必ず単位を修得しなければならない科目

| | | |
|---|--|------------|
| ① | ゼミナールⅡ（テーマリサーチ）（4回生以上） 人文総合科学演習Ⅱ（学際プログラムで開講）（4回生以上） | 1科目4単位選択必修 |
| ② | 卒業論文（4回生以上） | 4単位必修 |

登録必修科目（必ず登録・受講しなければならない科目）

| | | |
|---|--|------------------|
| ③ | リテラシー入門（1回生のみ） | 1科目2単位（教養科目） |
| ④ | 人文総合科学研究入門（1回生のみ） | 1科目4単位 |
| ⑤ | 人文総合科学概説Ⅰ（2回生以上） （2005年度・2006年度入学生のみ） | 1科目2単位 |
| ⑥ | 人文総合科学外書講読Ⅰ・Ⅱ（2回生以上） | 2科目4単位 |
| ⑦ | 人文総合科学基礎講読Ⅰ・Ⅱ（2回生のみ） | 2科目4単位 |
| ⑧ | 人文総合科学情報処理Ⅰ・Ⅱ（2回生のみ） | 2科目4単位（教養科目） |
| ⑨ | 外国文化講読（第一外国語）（3回生以上） | 1科目4単位（人文科学総合講座） |
| ⑩ | ゼミナールⅠ（テーマリサーチ）（3回生のみ） 人文総合科学演習Ⅰ（学際プログラムで開講）（3回生のみ） | 1科目4単位選択 |
| ⑪ | 国際社会フォーラム入門（1回生のみ） （2007年度以前入学生のみ） | 1科目2単位 |
| ⑫ | 国際社会フォーラムⅠ（2回生） | 1科目2単位 |
| ⑬ | 国際社会フォーラムⅡ（3回生） （2005年度・2006年度入学生のみ） | 1科目2単位 |

* 国際インスティテュート専門外国語で英語を選択した場合、上記以外に登録必修科目がいくつかあります。
詳細は『国際インスティテュート学修ガイドブック』を参照してください。

受講登録方法は履修要項を参照してください。

